

イ	一節五〇七
ロ	二節六〇七
ハ	三節七〇六
ニ	四節八〇五
ホ	五節九〇四
ヘ	六節一〇〇三
ト	七節一〇〇二
チ	八節一〇〇一
リ	九節一〇〇〇
ル	一〇節九九九
レ	一一節九九八
ヲ	一二節九九七
ヲ	一三節九九六
ヲ	一四節九九五

新約全書路加傳福音書

一 我儕の事を始より親く見て道に役たる者の  
 二 我儕に傳し如く記載ん多の八々これを手に執る故に貴きヲヨビロ  
 三 我も原より諸の事を詳細に考究たれば次第を爲て爾に書おくり爾が  
 敬られし所の確實を曉せんと欲し○エグヤの王ヘロデの時にアピアの  
 班ある祭司ザカリヤと云る者あり其妻ハプロンの裔にて名をエリサベツ  
 と云ふ共に神の前にて義人あり凡て主の誡命と禮儀を虧なく行へり  
 リサベツ姪なきが故に彼等に子あし又二人とも年も老ぬハザカリヤの  
 班次に値て神の前に祭司の職を行ふ時祭司の例に従ひ錢を抽て主の殿  
 にいり香を燒く香を燒ける時に衆の人々のみみ外に居て祈れり  
 主の使者香壇の右に立てザカリヤに現れしかバニザカリヤ之を見て驚  
 懼る天使彼に曰けるハザカリヤよ懼るゝ勿れ爾の祈禱すでに聞たまへ  
 り爾の妻エリサベツ男子を生ん其名をヨハシと名くべし爾に喜ぶと樂



三九  
 リア曰けるハ我ハ是主の使女ナリ爾の言る如ク我に應カシ天使の以に彼  
 を去リ○其當時マリア起テ亟カニ山地なるユダの邑に往キザカリアの家  
 に入テエリサベツツに問安したりしにエリサベツツマリアの問安を聞シカ  
 ハ其胎孕腹の内にて跳動たりエリサベツツ聖靈に感されニ大聲に叫ひけ  
 るハ女の中にて爾ハ福ある者なり亦孕る所の者も福なりニわが主の母わ  
 れに來われ何に由テか此事を得し夫あんちの問安の聲わが耳に入し  
 五胎孕よろこびて我腹の中に跳れり主の言を信せし者ハ福あり蓋主の  
 語たまひし如ク必ず成べけれバ也マリア曰けるハ我心主を崇め我靈  
 ハわが救主なる神を喜ぶハ是子の使女の卑微をも春願たまふが故なり今  
 よりのち萬世までも我を福なる者と稱べし凡れ權能を有たまへる者わ  
 れに大かざる事を成り其名ハ聖子の矜恤ハ世々かれを畏る者に及べん  
 五其臂の力を發して心の驕る者を散し五權柄ある者を位より下し卑賤者  
 と擧げ五柳たる者を美食に飽せ富る者を從く返らせ給ふマリアハと其

九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十

五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十

五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十



九六	十	御前七十、路六、十
九六	十一	路二五九、路十五、八
九六	十二	路二〇二、路一、路一、路一
九六	十三	路二〇二、路一、路一、路一
九六	十四	路二〇二、路一、路一、路一
九六	十五	路二〇二、路一、路一、路一
九六	十六	路二〇二、路一、路一、路一
九六	十七	路二〇二、路一、路一、路一
九六	十八	路二〇二、路一、路一、路一
九六	十九	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十一	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十二	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十三	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十四	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十五	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十六	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十七	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十八	路二〇二、路一、路一、路一
九六	二十九	路二〇二、路一、路一、路一
九六	三十	路二〇二、路一、路一、路一

に臥たる嬰兒に尋通り、既に見て此子につき天使の語りし事を傳播せられ、  
 十 聞者みな羊を牧者の語る事を奇みたり、ルカの凡て是等の言を心に  
 十一 記て思想し、娘羊を牧者等の見聞せる所みな己に語りし所の如なるにより  
 十二 神を崇め、讚美て返れり。○三子に割禮を行ふべき八日、日いたりければ  
 十三 其の父は胎に當る先に天の使者を稱し、如く名をイェスと稱たり。○三モ  
 十四 七律法に循ひて、潔の日満ければ、嬰兒を携て主に獻げ、ルカが爲エルサレム  
 十五 に上れり。○是主の例に初に生るる男子の聖者と稱べしと録されたる  
 十六 が如し、三また主の律法に斑鳩一雙あるひ、雛二を獻ふべしと言はるに  
 十七 循ひて祭を行ふ爲なり。○五倍エルサレムにシメオンと云る人あり、斯人の  
 十八 義か、敬ありて、イスラエルの民の慰められん事を、使る者なり、聖靈の  
 十九 臨り、三また主のキリストを見ざる間、死と聖靈にて示さるるも、カれ聖  
 二十 靈に感じて、神殿に入り、兩親の子イェスを律法の例に循ひて行はんと携  
 二十一 來りしに、シメオン嬰兒を抱き、神を讚美ひける、主よ、今、ウの言に従

九七	一	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二	路二〇二、路一、路一、路一
九七	三	路二〇二、路一、路一、路一
九七	四	路二〇二、路一、路一、路一
九七	五	路二〇二、路一、路一、路一
九七	六	路二〇二、路一、路一、路一
九七	七	路二〇二、路一、路一、路一
九七	八	路二〇二、路一、路一、路一
九七	九	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十一	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十二	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十三	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十四	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十五	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十六	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十七	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十八	路二〇二、路一、路一、路一
九七	十九	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十一	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十二	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十三	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十四	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十五	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十六	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十七	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十八	路二〇二、路一、路一、路一
九七	二十九	路二〇二、路一、路一、路一
九七	三十	路二〇二、路一、路一、路一

ひて僕を安然に世をバ逝せ給ふ事、我目すでに萬民の前に設たまひし救を  
 一 見たり。○三これ異邦人を照さん光なり、三またルの民イスマエルの榮なり、三  
 二 人の父母に就て語る事を奇をれり、又シメオン彼等を視て、其母、マ  
 三 リアに曰ける、此嬰兒イスマエルの多の人の顔て目興らん事と、詳駁を  
 四 受ん其號に立らるる、五これ衆の心の念の露れんが爲なり、又劍なんちが心を  
 五 も刺透べし。○三アセルの支派バサエルの女にアンナと云る預言者あり、彼  
 六 ハ甚老邁なり、其處女なりしとき、夫に適て七年どもに居たり、まこの老女ハ  
 七 齢おほよ、八十四歳の整なりし、が殿を離す夜も、晝も斷食と祈禱を爲て、神  
 八 に事ふ、此時この老女も側にて主を讚美し、亦エルサレムにて贖を望る  
 九 の人に、此子の事を語れり。○主の律法に循ひて、悉く竟ければ、ガリヤ  
 十 の己が、巴ナザレに歸たり、其子やく成長して、精神強健に、知慧みち、神の恩  
 十一 寵のの上に臨り。○四倍の兩親、毎年に、逾越の節筵に、エルサレムに往しが  
 十二 彼の十二歳の時、た節筵の例に循ひ、エルサレムに上れり、節筵の日本



ける人人を強暴し或ハ誣訴ることを爲なかれ得どころの給料を以て足り  
 と爲べし○十五民懷望し時なれば衆人みな心にヨハ子をキリストなるや否  
 と付度たりしに十六ヨハ子之に答ひひけるハ我ハ水を以てバプテスマを爾  
 曹に施へり我より能力ある者きたらん我ハ其履帯を解にも足手彼のハ聖靈  
 と火を以てバプテスマを爾曹に施らん手には箕を持て其禾場を潔め麥  
 ハ斂て其藏にいれ穀ハ滅びる火にて燒べし十八ヨハ子また多端を以て勸を  
 なし福音を民ハ宣傳たり十九さて分封の君なるヘロデゾの兄弟ヒリボの妻  
 ヘロデヤの事および行ふ所の凡の悪事をヨハ子に責られければ二十猶も惡  
 事を加へヨハ子を獄に囚たり三民みなバプテスマを受けけるにイエスも亦  
 バプテスマを受けて祈るとき天ひらけ三聖靈鴿の如き狀にて其上に降ぬ又  
 天より聲あり云なんぢハ我愛子わが喜ぶ所の者なり○三時ホイエス年お  
 ぼよろ三十にして福音を宣始ひ人々にヨセフの子と意れ給へりヨセフの  
 父ハヘリ三其父ハマツタラ其父ハレビ其父ハマタルキ其父ハヤソナ其父ハ

リ 約〇九卷五  
 廿三〇十一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

ヨセフ三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 ナムガハ三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 ハユダ三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 父ハヨリ三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 父ハエル三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 其父ハレビ三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 ハエリアキム三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 ソ其父ハガビラ三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 モソ其父ハナアソソ三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 父ハパレス三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 父ハチラ三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 父ハベル三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ  
 ア其父ハラマク三其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ其父ハマタルキ

エ 水〇二二  
 手 聖二〇二  
 ア 後五〇十四代上三〇五、  
 御五〇六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

三	創一頁廿七
四	太四〇一頁一、可一〇一頁一〇一、路二七廿七、徒八〇九
五	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
六	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
七	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
八	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
九	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十一	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十二	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九

レエル其父ハカイナシ其父ハエノス其父ハセツ其父ハアザムアザムハ即ち神の子なり

四十四節 倍イエス聖靈に感されてヨルダンより歸り、靈に導かれ野に過て、これに曰けるハ爾もし神の子ならバ此石に命じてバンと爲せよ、<sup>四</sup> イエス答けるハ人のみにて生る者に非ず、唯神の凡の言に由り、<sup>五</sup> 惡魔また彼を高山に携ゆき、一瞬間に天下の萬國を示して、<sup>六</sup> 曰けるハ此すべての權威と榮華を爾に予ン、我これに委任たれば、我が欲む者に之を予ムべし、<sup>七</sup> 故に若わが前に拜跪バ、惡く爾の屬とならん、<sup>八</sup> イエス答けるハサタシ、<sup>九</sup> 我後に退け、獨主たる爾の神に拜跪之れにのみ事べし、と録されたり、<sup>九</sup> 惡魔またイエスをエルサレムに携ゆき、<sup>十</sup> 聖殿の頂に立て、曰けるハ、爾もし神の子ならバ、此より己が身を投よ、<sup>十一</sup> 下の使者等に命じて、爾を護せん、<sup>十二</sup> 爾が足の石に躓ざるや、<sup>十三</sup> 彼等手にて扶べし、と録さる、<sup>十三</sup> イエス答けるハ

十三	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十四	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十五	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十六	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十七	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十八	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
十九	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十一	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十二	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十三	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十四	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十五	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十六	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十七	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十八	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
二十九	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
三十	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
三十一	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
三十二	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九
三十三	徒二〇一頁一、路二七廿七、徒八〇九

主たる爾の神を試む可らずと云おけり、<sup>十三</sup> 惡魔この誘試みな畢て、暫く彼を離たり、<sup>十四</sup> イエス聖靈の能を以てガリラヤに歸し、<sup>十五</sup> 其聲名あまねく四方の地に廣がりぬ、<sup>十六</sup> 斯て彼等が會堂にて教を爲凡ての人人々に榮を得たり、<sup>十六</sup> 彼の長言し所なるナザレに來り、<sup>十七</sup> 常例の如く安息日に會堂に入て聖書を讀んで立て、<sup>十八</sup> 預言者イザヤの書を予し、<sup>十九</sup> イエス其書を展て、<sup>二十</sup> 斯録れたる所を見出せり、<sup>二十一</sup> 主の靈われに在す故に貧者に福音を宣傳ん事を我に膏を沃て、<sup>二十二</sup> 任じ心の傷る者を醫し、<sup>二十三</sup> 又囚人に釋ん事を、<sup>二十四</sup> 替者に見させん事を示し、<sup>二十五</sup> 又壓制らるる者を縱ち、<sup>二十六</sup> 主の應年を宣播んが爲に我を遣せり、<sup>二十六</sup> イエス書を捲るの役者に予へて坐し、<sup>二十七</sup> ければ、<sup>二十八</sup> 會堂に在者みな目を注て視なせり、<sup>二十九</sup> イエス彼等に曰けるハ、<sup>三十</sup> 此録れたる事ハ今日なんぢらの前に應り、<sup>三十一</sup> 三衆かれを稱讚するの口より出る所の恩恵の言を奇み、<sup>三十二</sup> 曰けるハ、<sup>三十三</sup> 此ハヨセフの子に非せ、<sup>三十四</sup> 我儕が聞し所のカペナウシにて行し事を自己の家郷なる此土にも行べ

甲 本十三〇五十七、路四〇四  
 十四、五十七、路四〇四  
 乙 本十五七、路四〇二  
 十五、十七、路四〇二  
 丙 本十七〇九、  
 路四〇九  
 丁 本五〇至五十四、  
 路四〇九  
 戊 本八五九、路四〇九  
 六、路四〇九  
 己 本九〇九、路四〇九  
 七、路四〇九  
 庚 本九〇九、路四〇九  
 八、路四〇九  
 辛 本九〇九、路四〇九  
 九、路四〇九  
 壬 本九〇九、路四〇九  
 十、路四〇九

二四 しと云ん三才た曰けるハ我まこと足に爾曹に告ん預言者々の家郷にてハ敬  
 重るゝ者に非ず五われ誠を以て爾曹に告んエリヤの時三年と六ヶ月天と  
 ちて遍地おほいなる饑饉なりし其時イサエルの中に多の瘡ありしか  
 三六 エリヤハ其一人ハに遣され亦只シドンなるサレバタの一人の瘡に遣  
 されたり七才た預言者エリヤの時イサエルの中に多の瘡者あり  
 三八 しかば其一人だに潔られず惟スリヤのナイマンのみ潔られたりニ會堂に  
 三九 在し者これを開て大に憤憤り三起てイエスを邑の外に出し投下さんて  
 四十 其邑の建たる山の崖にまで與往り三然にイエス彼等の中を徑行て去ぬ三  
 四一 ガリラヤのカペナウソんと云る邑に至りて安息日ご足に衆人を教しに三ろ  
 四二 の言權威有けれバ衆人の教に驚けり三會堂に汚たる鬼の靈に憑れた  
 四三 人あり大聲に喊叫いひけるハ三噓ササレのイエスよ我儕なんちは何の  
 四四 與わらんや爾きたりて我儕を喪すか我なんち誰なる乎を知らずかハ神  
 四五 の聖なる者なり三イエス之を責て曰けるハ三聲を出てと勿れ其處を出し惡

乙 本八〇四、路四十七、路四〇四  
 丙 本八〇四、路四十七、路四〇四  
 丁 本八〇四、路四十七、路四〇四  
 戊 本八〇四、路四十七、路四〇四  
 己 本八〇四、路四十七、路四〇四  
 庚 本八〇四、路四十七、路四〇四  
 辛 本八〇四、路四十七、路四〇四  
 壬 本八〇四、路四十七、路四〇四  
 癸 本八〇四、路四十七、路四〇四

二六 鬼つひに其人を衆中に入れし徳を以て出言衆人みな驚き互に語いひける  
 二七 ハ權威も能力を有て汚たる鬼に命せしかば出まはり是いかなる道やと三是  
 二八 に於てイエスハ聲名徧く此四方に揚りぬ三イエス會堂を出てシモ  
 二九 シバ家に入しにシモンハ妻母おほき熱病を患ひ居たりと三衆人之が爲に  
 三〇 イエスに求けれバ其傍に立て熱を斥して熱退けり婦直に起て彼箆に事  
 三一 たり早日ハ人どき各様ハ病を患たる者をもてる人々皆其をイエスに携來  
 三二 けれバ一々其上に手を按て醫せり三惡鬼も亦多し人々を出さり喊叫て爾  
 三三 ハ神は子キリスト也と云り然に之を斥て言ふこと容ざりき惡鬼其キリス  
 三四 トなるを識バ也三明日イエス出て人あき處に往けれバ衆人尋求て其離去  
 三五 とを止む三イエス曰けるハ我又他ハ鄉村にも神ハ國ハ福音を宣傳ざるを  
 三六 得ず蓋我之が爲に遣るレバ也三斯てガリラヤハ諸會堂にて道を宣傳たり  
 三七 醫衆人神ハ道を聽んて擠擁ける時イエスガサレバ湖ハ濱に立て  
 三八 三磯に二艘ハ舟あるを見る漁者ハ舟を離て網を洗をれり三其一艘ハシ



3 本九の九章十三、二十、三十、三十七  
 4 本十一の九章五、十二、十五、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

35 瘋人々に我かんぢに告おきて、牀をどり、家に歸れ、と曰けり。五、前にて直に起て、臥居たる牀をどり、神を崇て、己が家に歸ぬ。六、衆人みな駭き、て神を崇かつ大に畏懼て曰ける。七、我儂今日奇異ある事を見たり。八、此後イエス出て、レバビと云る。猶、彼れ稱關に坐し居けるを見て、我に從へ、と曰けり。九、レバビ一切を捨おき起て、從へり。十、レバビ己が家にて、イエスは爲る、豐盛なる筵を設し、に稱、更、また、他の人々も共に、筵を坐したる者多かりければ、三、其所に學者と、パリサイ人、イエスは弟子に、怨言曰ける。四、爾曹、稅吏、また、罪ある人々、と、共、お、飲、食、する、の、何、故、か、三、イエス答て曰ける。五、爾、康、強、なる、者、の、醫、者、は、助を、需、す、惟、病、ある、者、之、を、需、む、三、わが、來る、の、義、人、を、召、く、爲、に、非、ず、罪、ある、人、を、召、て、悔、改、せ、ん、が、爲、なり、三、彼、等、イエスに曰ける。六、ヨハナは弟子の、屢、斷、食、史、た、祈、禱、を、お、す、バ、リ、サ、イ、は、弟、子、も、亦、然、り、然、る、に、爾、は、弟、子、飲、こ、ど、食、こ、ど、を、爲、す、の、何、故、か、三、イエス曰ける。七、新、郎、は、朋、友、う、れ、新、郎、と、一、處、に、居、間、は、之、を、斷、食、お、さ、し、む、る、事、を、得、ん、や、三、將、來、新、郎、と、別、る、く、日、い、たら、ん、其、日、お、

1 本二の八章二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

36 斷食すべきなり。三、譬を以て曰ける。四、新衣を裁取て、舊衣を補ふ者、わらば、然、せ、バ、新衣をも、壞、ひ、且、新より、取、たる、布、の、舊、もの、と、合、す、言、ま、た、新酒を、舊、革、袋、に、盛、る、者、わ、ら、じ、若、し、か、せ、バ、新酒、の、酒、の、其、袋、を、は、り、さ、ぎ、を、漏、出、か、つ革、袋、も、壞、る、べ、し、三、新酒、の、新、革、袋、に、盛、べ、き、者、が、斯、て、之、の、兩、方、が、ら、存、お、れ、三、舊酒を、飲、ん、で、立、刻、に、新酒を、飲、む、の、有、じ、是、舊、の、尤、も、好、ま、る、云、べ、なり。五、**醫、術、論**、逾越節の二日の、彼、ら、の、首、の、安、息、日、に、イエス、麥、の、畑、を、徑、行、し、に、其、弟、子、麥の穂を、摘、み、て、手、に、て、擣、く、ら、ひ、し、か、バ、二、或、バ、リ、サ、イ、の、人、か、れ、ら、に、曰、ける。三、爾、曹、安、息、日、に、行、ま、じ、き、事、を、行、ひ、何、故、か、三、イエス答て曰ける。四、レバビお、よ、び、從、に、在、し、者、の、饑、し、と、き、行、た、る、事、を、未、だ、讀、む、る、平、四、即、ち、神、の、殿、に、入、た、る、祭、司、の、外、の、食、史、と、き、供、物、の、パン、を、取、て、食、か、つ、從、に、在、し、者、に、も、予、たり、五、又、曰、ける、六、人、の、子、の、安、息、日、に、も、主、た、る、也、七、**また**、一、の、安、息、日、に、イエス會堂に、入、て、教、ふ、此、に、右、の、手、拈、た、る、人、あ、り、け、れ、バ、八、學、者、と、バ、リ、サ、イ、の、人、イエスこれ、を、安、息、日、に、醫、な、ら、ん、か、と、疑、ひ、ぬ、蓋、か、れ、を、訴、え、ん、と、欲、べ、き、ア、イ、エ、ス

九 彼の意を知て手なへたる人に超て中に立よと曰ければ其人おきて立ち九

十 イエス曰けるに我あんがらに問ふ安息日に善を行ふ惡を行ふ又生を救ふ

十一 彼と孰をかが行べきと遂に衆人を環視て其人に手を伸よと曰ければ彼ら

十二 の如せしに手すなほち愈て他の手の如くなれり、<sup>十一</sup> 彼等大に怒て如何にイ

十三 エスを處んと互に議あへり○<sup>十三</sup> 當時イエス祈禱の爲に山に往て終夜神に

十四 祈れり<sup>十三</sup> 夜明てイエス弟子を呼ぶの中より十二人を選て之を使徒と稱く

十五 即ちペテロと名給ひしシモンの兄弟アンデレ及ヤコブとヨハナと

十六 リポとバルトロマイとマタとトマスとアルバイの子あるヤコブとゼロラ

十七 と云るシモンとヤコブの兄弟のユダとイスカリオテのユダあり此ユダハ

十八 イエスを賣たる者なり<sup>十八</sup> イエスは等と共に下て平かなる地に立しに許多

十九 の弟子と夥しき人々ユダヤの四方またエルサレム及ツロシポンの海邊

二十 より來集りて或の其教を聽んとし或の病を醫されん事を冀へり<sup>二十</sup> 又惡鬼

二十一 に難ざれたる者わり威く醫されたり<sup>二十一</sup> 衆かあイエスに押らんせり是能

九 本九〇四

十 本十〇二至四、可三〇十三

十一 本四〇五至可三〇六

十二 本四〇五至可三〇六

十三 本四〇五至可三〇六

十四 本四〇五至可三〇六

十五 本四〇五至可三〇六

十六 本四〇五至可三〇六

十七 本四〇五至可三〇六

十八 本四〇五至可三〇六

十九 本四〇五至可三〇六

二十 本四〇五至可三〇六

二十一 本四〇五至可三〇六

九 本九〇三至二

十 本九〇三至二

十一 本九〇三至二

十二 本九〇三至二

十三 本九〇三至二

十四 本九〇三至二

十五 本九〇三至二

十六 本九〇三至二

十七 本九〇三至二

十八 本九〇三至二

十九 本九〇三至二

二十 本九〇三至二

二十一 本九〇三至二

二十二 本九〇三至二

二十三 本九〇三至二

二十四 本九〇三至二

二十五 本九〇三至二

二十六 本九〇三至二

二十七 本九〇三至二

二十八 本九〇三至二

二十九 本九〇三至二

三十 本九〇三至二

三十一 本九〇三至二

三十二 本九〇三至二

三十三 本九〇三至二

三十四 本九〇三至二

三十五 本九〇三至二

三十六 本九〇三至二

三十七 本九〇三至二

三十八 本九〇三至二

三十九 本九〇三至二

四十 本九〇三至二

四十一 本九〇三至二

四十二 本九〇三至二

四十三 本九〇三至二

四十四 本九〇三至二

四十五 本九〇三至二

四十六 本九〇三至二

四十七 本九〇三至二

四十八 本九〇三至二

四十九 本九〇三至二

五十 本九〇三至二

五十一 本九〇三至二

五十二 本九〇三至二

五十三 本九〇三至二

五十四 本九〇三至二

五十五 本九〇三至二

五十六 本九〇三至二

五十七 本九〇三至二

五十八 本九〇三至二

五十九 本九〇三至二

六十 本九〇三至二

六十一 本九〇三至二

六十二 本九〇三至二

六十三 本九〇三至二

六十四 本九〇三至二

六十五 本九〇三至二

六十六 本九〇三至二

六十七 本九〇三至二

六十八 本九〇三至二

六十九 本九〇三至二

七十 本九〇三至二

七十一 本九〇三至二

七十二 本九〇三至二

七十三 本九〇三至二

七十四 本九〇三至二

七十五 本九〇三至二

七十六 本九〇三至二

七十七 本九〇三至二

七十八 本九〇三至二

七十九 本九〇三至二

八十 本九〇三至二

八十一 本九〇三至二

八十二 本九〇三至二

八十三 本九〇三至二

八十四 本九〇三至二

八十五 本九〇三至二

八十六 本九〇三至二

八十七 本九〇三至二

八十八 本九〇三至二

八十九 本九〇三至二

九十 本九〇三至二

九十一 本九〇三至二

九十二 本九〇三至二

九十三 本九〇三至二

九十四 本九〇三至二

九十五 本九〇三至二

九十六 本九〇三至二

九十七 本九〇三至二

九十八 本九〇三至二

九十九 本九〇三至二

一百 本九〇三至二

一百〇一 本九〇三至二

一百〇二 本九〇三至二

一百〇三 本九〇三至二

一百〇四 本九〇三至二

一百〇五 本九〇三至二

一百〇六 本九〇三至二

一百〇七 本九〇三至二

一百〇八 本九〇三至二

一百〇九 本九〇三至二

一百一十 本九〇三至二

一百一十一 本九〇三至二

一百一十二 本九〇三至二

一百一十三 本九〇三至二

一百一十四 本九〇三至二

一百一十五 本九〇三至二

一百一十六 本九〇三至二

一百一十七 本九〇三至二

一百一十八 本九〇三至二

一百一十九 本九〇三至二

一百二十 本九〇三至二

一百二十一 本九〇三至二

一百二十二 本九〇三至二

一百二十三 本九〇三至二

一百二十四 本九〇三至二

一百二十五 本九〇三至二

一百二十六 本九〇三至二

一百二十七 本九〇三至二

一百二十八 本九〇三至二

一百二十九 本九〇三至二

一百三十 本九〇三至二

一百三十一 本九〇三至二

一百三十二 本九〇三至二

一百三十三 本九〇三至二

一百三十四 本九〇三至二

一百三十五 本九〇三至二

一百三十六 本九〇三至二

一百三十七 本九〇三至二

一百三十八 本九〇三至二

一百三十九 本九〇三至二

一百四十 本九〇三至二

一百四十一 本九〇三至二

一百四十二 本九〇三至二

一百四十三 本九〇三至二

一百四十四 本九〇三至二

一百四十五 本九〇三至二

一百四十六 本九〇三至二

一百四十七 本九〇三至二

一百四十八 本九〇三至二

一百四十九 本九〇三至二

一百五十 本九〇三至二

一百五十一 本九〇三至二

一百五十二 本九〇三至二

一百五十三 本九〇三至二

一百五十四 本九〇三至二

一百五十五 本九〇三至二

一百五十六 本九〇三至二

一百五十七 本九〇三至二

一百五十八 本九〇三至二

一百五十九 本九〇三至二

一百六十 本九〇三至二

一百六十一 本九〇三至二

一百六十二 本九〇三至二

一百六十三 本九〇三至二

一百六十四 本九〇三至二

一百六十五 本九〇三至二

一百六十六 本九〇三至二

一百六十七 本九〇三至二

一百六十八 本九〇三至二

一百六十九 本九〇三至二

一百七十 本九〇三至二

一百七十一 本九〇三至二

一百七十二 本九〇三至二

一百七十三 本九〇三至二

一百七十四 本九〇三至二

一百七十五 本九〇三至二

一百七十六 本九〇三至二

一百七十七 本九〇三至二

一百七十八 本九〇三至二

一百七十九 本九〇三至二

一百八十 本九〇三至二

一百八十一 本九〇三至二

一百八十二 本九〇三至二

一百八十三 本九〇三至二

一百八十四 本九〇三至二

一百八十五 本九〇三至二

一百八十六 本九〇三至二

一百八十七 本九〇三至二

一百八十八 本九〇三至二

一百八十九 本九〇三至二

一百九十 本九〇三至二

一百九十一 本九〇三至二

一百九十二 本九〇三至二

一百九十三 本九〇三至二

一百九十四 本九〇三至二

一百九十五 本九〇三至二

一百九十六 本九〇三至二

一百九十七 本九〇三至二

一百九十八 本九〇三至二

一百九十九 本九〇三至二

二百 本九〇三至二

二百〇一 本九〇三至二

二百〇二 本九〇三至二

二百〇三 本九〇三至二

二百〇四 本九〇三至二

二百〇五 本九〇三至二

二百〇六 本九〇三至二

二百〇七 本九〇三至二

二百〇八 本九〇三至二

二百〇九 本九〇三至二

二百一十 本九〇三至二

二百一十一 本九〇三至二

二百一十二 本九〇三至二

二百一十三 本九〇三至二

二百一十四 本九〇三至二

二百一十五 本九〇三至二

二百一十六 本九〇三至二

二百一十七 本九〇三至二

二百一十八 本九〇三至二

二百一十九 本九〇三至二

二百二十 本九〇三至二

二百二十一 本九〇三至二

二百二十二 本九〇三至二

二百二十三 本九〇三至二

二百二十四 本九〇三至二

二百二十五 本九〇三至二

二百二十六 本九〇三至二

二百二十七 本九〇三至二

二百二十八 本九〇三至二

二百二十九 本九〇三至二

二百三十 本九〇三至二

二百三十一 本九〇三至二

二百三十二 本九〇三至二

二百三十三 本九〇三至二

二百三十四 本九〇三至二

二百三十五 本九〇三至二

二百三十六 本九〇三至二

二百三十七 本九〇三至二

二百三十八 本九〇三至二

二百三十九 本九〇三至二

二百四十 本九〇三至二

二百四十一 本九〇三至二

二百四十二 本九〇三至二

二百四十三 本九〇三至二

二百四十四 本九〇三至二

二百四十五 本九〇三至二

二百四十六 本九〇三至二

二百四十七 本九〇三至二

二百四十八 本九〇三至二

二百四十九 本九〇三至二

二百五十 本九〇三至二

二百五十一 本九〇三至二

二百五十二 本九〇三至二

二百五十三 本九〇三至二

二百五十四 本九〇三至二

二百五十五 本九〇三至二

二百五十六 本九〇三至二

二百五十七 本九〇三至二

二百五十八 本九〇三至二

二百五十九 本九〇三至二

二百六十 本九〇三至二

二百六十一 本九〇三至二

二百六十二 本九〇三至二

二百六十三 本九〇三至二

二百六十四 本九〇三至二

二百六十五 本九〇三至二

二百六十六 本九〇三至二

二百六十七 本九〇三至二

二百六十八 本九〇三至二

二百六十九 本九〇三至二



六六 衆人みな懼て神を崇いひけるハ大なる預言者われら此中に興る神ラ此  
 六七 民を眷顧たせりテイエスの此聲名ユダヤの全國また徧く四方に揚り  
 六八 ヲハヨハ子の弟子すべて是等此事を彼に告げればヨハ子の弟子  
 六九 二人イエスわれり日けるハバラスマのヨハ子我儕を爾に遣して言しむ  
 七〇 來るべき者之爾なるか亦われら他に俟べきか三此時イエス多の疾わるひ  
 七一 之病および惡鬼に憑たる者を醫し且おほくの聲に見ることを賜たり三ノ  
 七二 エス彼等も答日けるハ爾曹が見て之を聞て之をヨハ子に往て告よ夫聲  
 七三 者ハ見破者之行み癡者ハ潔り靈者之きく死し者之復活され貧者ハ福音を  
 七四 聞せらる三凡ろ我爲に蹟かざる者ハ福なり三ヨハ子の使者さりし後イエ  
 七五 スヨハ子の事を衆人に日けるハ何を見んとて野に出しや風に動ざるノ章  
 七六 なる乎然バ爾曹なに見んとて出しや美服を衣たる人なるか文繡  
 七七 を衣て奢る者ハ王の宮に在然バ何を見んとて出しや預言者なるか然わ

五 いひけるハ此事を求る人ハ善人なり五我民を愛し我儕の爲に會堂を建た  
 六 イエス彼等と共に往て既や其家に近けるとき百夫の長朋友を遣して  
 七 日せけるハ主よ自己を變動こそ勿れ我が家裏に入奉るハ懼多し七故に我  
 八 なんかの前に出も亦懼あり第一言を發たまひよ我僕ハ愈ん蓋われ人の  
 九 權威の下に屬る者なるに我下に亦兵卒ありて此に往て命バ往かれに來て  
 十 命バ來る我僕に之を行て命バ即ち行が故なり九イエス聞て之を奇み從へ  
 十一 人々を願て日けるハ我なんぢらに告んイスラエルの中にも未だ斯る  
 十二 篤信に遇ざりき十遣されたる者家に歸て病たりし僕を見バ巴に全快をな  
 十三 せり十翌日イエスナインと云る邑に往けるに許多の弟子および許多の  
 十四 人々も共に往り十二邑の門に近づきしとき昇出さるゝ死人あり其母ハ櫻に  
 十五 て此ハ獨の子あり邑の人々多これに伴ふ十三主櫻を見て憫み哭なかれと日  
 十六 て十四近より其櫻に手を披けれハ昇る者せり止れりイエス日けると少者よ  
 十七 我なんぢに命おきよ十五死たる者起て且言ひ始むイエス之を其母に守せり



一	ルカ三
二	ルカ九〇世二章八〇四八
三	ルカ九〇世五十五五十六
四	ルカ九〇世五十五五十六
五	ルカ九〇世五十五五十六
六	ルカ九〇世五十五五十六
七	ルカ九〇世五十五五十六
八	ルカ九〇世五十五五十六
九	ルカ九〇世五十五五十六
十	ルカ九〇世五十五五十六
十一	ルカ九〇世五十五五十六
十二	ルカ九〇世五十五五十六
十三	ルカ九〇世五十五五十六
十四	ルカ九〇世五十五五十六
十五	ルカ九〇世五十五五十六
十六	ルカ九〇世五十五五十六
十七	ルカ九〇世五十五五十六
十八	ルカ九〇世五十五五十六
十九	ルカ九〇世五十五五十六

其愛も亦多なり赦るゝこと少き者ハ其愛も亦少しハ是に於て其婦に曰け  
 るハ爾の罪赦さる同に坐せる者悉も心の中に謂けるハ此人ハは何人ナ  
 れバ罪を赦す乎平イエス婦に曰けるハ爾の信爾を救ハ安然にして往  
 来此後イエス郷邑を周遊て神の國の福音を宣傳ス十二の弟子も偕に  
 從ひぬニまた前に惡鬼を患たりし者病を痊れたる婦等も從ひたり即ち七  
 の惡鬼を逐出れたるマダラと稱アリ又ヘロデの家令クラーザの妻ヨ  
 ハンナ又サザンナ此後か多の婦ありて皆その所有を以てイエスに供事た  
 りき○四衆の人々諸邑より出てイエスの所に集りければ譬をもて曰り五  
 種多く者種を播んとて出ぬ播るとき路旁に遺し種あり戯踏られ且天空の  
 鳥これを食へり六また石上に遺し種あり萌出て穡たり是潤なきが故なり  
 七また棘の中に遺し種あり棘も同に生長て之を蔽り八また沃壤に遺し種  
 わり生出て實を結べることを百倍せり是を言畢て呼りけるハ耳ありて聴ゆ  
 る者ハ聴べし其弟子とて曰けるハ是いかなる譬ぞ十答けるハ神の國

一	ルカ九〇九
二	ルカ九〇九
三	ルカ九〇九
四	ルカ九〇九
五	ルカ九〇九
六	ルカ九〇九
七	ルカ九〇九
八	ルカ九〇九
九	ルカ九〇九
十	ルカ九〇九
十一	ルカ九〇九
十二	ルカ九〇九
十三	ルカ九〇九
十四	ルカ九〇九
十五	ルカ九〇九
十六	ルカ九〇九
十七	ルカ九〇九
十八	ルカ九〇九
十九	ルカ九〇九
二十	ルカ九〇九
二十一	ルカ九〇九
二十二	ルカ九〇九
二十三	ルカ九〇九
二十四	ルカ九〇九
二十五	ルカ九〇九
二十六	ルカ九〇九
二十七	ルカ九〇九
二十八	ルカ九〇九
二十九	ルカ九〇九
三十	ルカ九〇九
三十一	ルカ九〇九
三十二	ルカ九〇九
三十三	ルカ九〇九
三十四	ルカ九〇九
三十五	ルカ九〇九
三十六	ルカ九〇九
三十七	ルカ九〇九
三十八	ルカ九〇九
三十九	ルカ九〇九
四十	ルカ九〇九
四十一	ルカ九〇九
四十二	ルカ九〇九
四十三	ルカ九〇九
四十四	ルカ九〇九
四十五	ルカ九〇九
四十六	ルカ九〇九
四十七	ルカ九〇九
四十八	ルカ九〇九
四十九	ルカ九〇九
五十	ルカ九〇九
五十一	ルカ九〇九
五十二	ルカ九〇九
五十三	ルカ九〇九
五十四	ルカ九〇九
五十五	ルカ九〇九
五十六	ルカ九〇九
五十七	ルカ九〇九
五十八	ルカ九〇九
五十九	ルカ九〇九
六十	ルカ九〇九
六十一	ルカ九〇九
六十二	ルカ九〇九
六十三	ルカ九〇九
六十四	ルカ九〇九
六十五	ルカ九〇九
六十六	ルカ九〇九
六十七	ルカ九〇九
六十八	ルカ九〇九
六十九	ルカ九〇九
七十	ルカ九〇九
七十一	ルカ九〇九
七十二	ルカ九〇九
七十三	ルカ九〇九
七十四	ルカ九〇九
七十五	ルカ九〇九
七十六	ルカ九〇九
七十七	ルカ九〇九
七十八	ルカ九〇九
七十九	ルカ九〇九
八十	ルカ九〇九
八十一	ルカ九〇九
八十二	ルカ九〇九
八十三	ルカ九〇九
八十四	ルカ九〇九
八十五	ルカ九〇九
八十六	ルカ九〇九
八十七	ルカ九〇九
八十八	ルカ九〇九
八十九	ルカ九〇九
九十	ルカ九〇九
九十一	ルカ九〇九
九十二	ルカ九〇九
九十三	ルカ九〇九
九十四	ルカ九〇九
九十五	ルカ九〇九
九十六	ルカ九〇九
九十七	ルカ九〇九
九十八	ルカ九〇九
九十九	ルカ九〇九
百	ルカ九〇九

の奧義を爾曹ハ知ことをも賜也他の者にハ譬を以てす此ハ視ても見ず聽  
 ても悟ざる爲なり十一夫この譬の釋種ハ神の道なり十二路の旁に遺しハ聽し  
 後惡魔の爲に其心より道を奪るゝ者なり彼ハ人の信じて救れんことを惡  
 る石上に遺しハ聽せき喜びて道を受けん根なれば信ずること暫の  
 み患難に遇時ハ道に背く者なり十三棘の中に遺しハ聽て往てこの世の諸慮を  
 貸財と宴樂とに蔽れて實ざる者なり十五沃壤に遺しハ正かつ善心にて道を  
 聽これを守り恐て實を結ぶ者なり○十六燈を燃し器にて之を覆ひ或ハ床下  
 におく者なし入來る者の其光を見ん爲に臺の上に置べし十七聽て現れざる  
 者なく藏て知れず露出ざる者なし十八是故に爾曹聽て之を憤め有る者ハな  
 ば子られ無有者ハ有り意ふ所の物をも奪るべし○十九此時イエスの母と  
 兄弟きたりければ群集に因て近くて坐能ざりしかば三人或人これをイエス  
 に告て曰けるハ爾が母と兄弟ならんぢに遇んとて外に立ち三イエス答て曰  
 けるハ神の道を聽て之を行ふ者ハ乃ち我母わが兄弟なり○三十一日イエス

三 弟子と共に舟に登りて、彼等に湖の彼岸へ渡べしと曰ければ、即ち漕出せり。三  
 舟の走る時、イエス寝たり。颯風湖に吹下し、舟に水溝などして危からしかば、  
 三 弟子きたりて、イエスを醒し曰ける、師よ、我儕亡なんとす。イエス起  
 二五 て風と涙とを斥めければ、止て平穩にありぬ。三、イエス曰ける、爾曹の信何  
 二六 所に在や。彼等駭き且奇みて互に曰ける、此に何人あるぞや。風と水とに命  
 二七 せしかば、亦順へり。三、斯てガリラヤに對するガダラの地に着て、三、岸に登し  
 二八 時ある一人、邑より出て、イエスに遇て、この者、久く惡鬼に憑れ、衣をきす家に  
 二九 住す。惟、塚にのみ居たりき。三、イエスを見て、喊叫するの前に俯伏し、大聲に呼り  
 三〇 ける、いと至上神の子、イエスよ、我かなちど何の興あらんや。爾に求我を苦むる  
 三〇 と勿れ。三、此惡鬼に人より出よ。と、イエスが命じたるに因て、亦彼の憑れた  
 三一 る事す。ては、久し鍵を杖に、極格にて繫守せり。其を打碎き、惡鬼の爲に野に透ぬ  
 三二 三、イエス之に問て曰ける、爾が名は何と稱や。答けるハレピヨソ。是はおほく  
 三三 惡鬼の入たるが故あり。三、惡鬼、イエスに求ける、命じて、底なき所に往し。

三〇三二

三 本八〇廿八節、四〇一  
 可成〇二廿一、

五 利一〇七六

テ 律十〇九

ア 馬六六

本八〇八節、六、可五〇  
 二五、十三

四四一

三 弟子と共に舟に登りて、彼等に湖の彼岸へ渡べしと曰ければ、即ち漕出せり。三  
 舟の走る時、イエス寝たり。颯風湖に吹下し、舟に水溝などして危からしかば、  
 二五 弟子きたりて、イエスを醒し曰ける、師よ、我儕亡なんとす。イエス起  
 二六 て風と涙とを斥めければ、止て平穩にありぬ。三、イエス曰ける、爾曹の信何  
 二七 所に在や。彼等駭き且奇みて互に曰ける、此に何人あるぞや。風と水とに命  
 二八 せしかば、亦順へり。三、斯てガリラヤに對するガダラの地に着て、三、岸に登し  
 二九 時ある一人、邑より出て、イエスに遇て、この者、久く惡鬼に憑れ、衣をきす家に  
 三〇 住す。惟、塚にのみ居たりき。三、イエスを見て、喊叫するの前に俯伏し、大聲に呼り  
 三〇 ける、いと至上神の子、イエスよ、我かなちど何の興あらんや。爾に求我を苦むる  
 三〇 と勿れ。三、此惡鬼に人より出よ。と、イエスが命じたるに因て、亦彼の憑れた  
 三一 る事す。ては、久し鍵を杖に、極格にて繫守せり。其を打碎き、惡鬼の爲に野に透ぬ  
 三二 三、イエス之に問て曰ける、爾が名は何と稱や。答けるハレピヨソ。是はおほく  
 三三 惡鬼の入たるが故あり。三、惡鬼、イエスに求ける、命じて、底なき所に往し。

三 びる勿れ。三、此に多の家の羣山に草を食むたりしが、彼等りの家に入んて、  
 三三 許せと求めければ、之を許せり。三、惡鬼りの人より出て、家に入しかば、其群は  
 三四 げしく馳下り、山坡より湖に落て、溺る言。敬者、亦其有し事を見て、逃ゆき。之  
 三五 を邑また諸村に告たり。三、衆人りの有し事を見んて、出て、イエスの所に來  
 三六 れば、惡鬼の離れし、人衣を着たしかなる心にて、イエスの足下に坐せるを見  
 三六 て、懼おへり。三、惡鬼に憑れたりし人の、救れし狀を見たる者、之の事を、彼等に  
 三七 告ければ、三、ガダラ四方の多の衆、庶、イエスに、此を去んて、之を求り、是、大に懼  
 三八 し。が故なり。イエス舟に登りて、返ぬ。三、惡鬼の離たる人、イエスと共に居んて、  
 三九 を求めるに、イエス之を去しめて、三、家にかへり、神の爾に行し、大なる事を、人  
 四〇 に告よ。と曰ければ、遂に去て、イエスの己に行たまひし、大なる事を、遍邑に傳  
 四一 たり。〇、三、イエス返たる、とき、衆人みな、皆、望て、之を、喜ひ、接ふ。三、ヤ、イ、ロ、と云る  
 四二 人あり。此の會堂の宰なり。年おほよ、十二歳なる一人の女ありて、瀕死なり  
 四三 ければ、來、イエスの足下に伏て、我家に來り、給んて、之を、求り、イエスの、往と、き



十一 サイダと云る邑は邊なる野に退きしむ。衆人しめて彼れば之を接て神に國は事を請かつ醫を求る者を醫せり。○三日具くどき十二の弟子きたりてイエスお曰ける。此の野を去れば衆人ば爲に往て買ふ非ざる。と我儕たり。五のパンと二は魚をとりて之を分ちて衆人ば食を飽て餘は拾たり。○六人子お子て衆人前にお陳しむ。七みな食飽て餘は拾たり。○六人衆人在ざりしとき祈禱えたりしが弟子も偕に居り。イエス之を問て曰ける。衆人の我を言て誰と爲か。答て曰ける。パプサマのヨハ子或ハエリヤ。或ハ古は預言者。一人は應える也。と。イエス曰ける。爾曹ハ我を言て誰と爲か。ペテロ答ける。神はキリストあり。と。イエス彼等を戒て此

十二 事は何人にも告る勿れ。命じたり。と。又曰ける。人の子かならず多くの苦を受て長老祭司の長學者並りに棄られ且殺され。第三日に甦るべし。又イエス衆人に曰ける。人若われに従はん。欲ふ者は己に克て日々。十字架を負て我に従へ。三の生命を保全せん。と。欲者の之を喪ひ我ために生命を喪ふ者ハ之を保全すべし。五人もし全世界を利するども自己を喪ひ自ら亡んば何の益あらん乎。と。我と我道を耻する者ハ人の子も亦おのが榮光と交と聖使の榮光をもて來る時これを耻べし。と。われ誠に爾曹に告ん此に立者の中に神の國を見せり。死ざる者あり。○六此事を言けるのち八日ばかり過てイエスペテロヨハ子ヤコブを携ひ祈禱せん。と。て出に登れり。と。祈れる時に其顔の貌の光と異り。其衣服白く輝き。二人の人ありて之を言へり。即ちモ一セとエリヤなり。榮光の中に現れて。と。イエスのエルサレムにて既や世を遊んとする事を請る。と。ペテロおよび偕に在し者等。いたく驚たりし。が巴に醒てイエスの榮光。また偕に立る。二人を見たり。と。この二人のイエス

ルカ九章八節  
マテ九章九節  
マテ九章十節  
マテ九章十一節  
マテ九章十二節  
マテ九章十三節  
マテ九章十四節  
マテ九章十五節  
マテ九章十六節  
マテ九章十七節  
マテ九章十八節  
マテ九章十九節  
マテ九章二十節  
マテ九章二十一節  
マテ九章二十二節  
マテ九章二十三節  
マテ九章二十四節  
マテ九章二十五節  
マテ九章二十六節  
マテ九章二十七節  
マテ九章二十八節  
マテ九章二十九節  
マテ九章三十節  
マテ九章三十一節  
マテ九章三十二節  
マテ九章三十三節  
マテ九章三十四節  
マテ九章三十五節  
マテ九章三十六節  
マテ九章三十七節  
マテ九章三十八節  
マテ九章三十九節  
マテ九章四十節  
マテ九章四十一節  
マテ九章四十二節  
マテ九章四十三節  
マテ九章四十四節  
マテ九章四十五節  
マテ九章四十六節  
マテ九章四十七節  
マテ九章四十八節  
マテ九章四十九節  
マテ九章五十節  
マテ九章五十一節  
マテ九章五十二節  
マテ九章五十三節  
マテ九章五十四節  
マテ九章五十五節  
マテ九章五十六節  
マテ九章五十七節  
マテ九章五十八節  
マテ九章五十九節  
マテ九章六十節

三三 三二 三十一 三十 二十九 二十八 二十七 二十六 二十五 二十四 二十三 二十二 二十一 二十 十九 十八 十七 十六 十五 十四 十三 十二 十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

十二 事は何人にも告る勿れ。命じたり。と。又曰ける。人の子かならず多くの苦を受て長老祭司の長學者並りに棄られ且殺され。第三日に甦るべし。又イエス衆人に曰ける。人若われに従はん。欲ふ者は己に克て日々。十字架を負て我に従へ。三の生命を保全せん。と。欲者の之を喪ひ我ために生命を喪ふ者ハ之を保全すべし。五人もし全世界を利するども自己を喪ひ自ら亡んば何の益あらん乎。と。我と我道を耻する者ハ人の子も亦おのが榮光と交と聖使の榮光をもて來る時これを耻べし。と。われ誠に爾曹に告ん此に立者の中に神の國を見せり。死ざる者あり。○六此事を言けるのち八日ばかり過てイエスペテロヨハ子ヤコブを携ひ祈禱せん。と。て出に登れり。と。祈れる時に其顔の貌の光と異り。其衣服白く輝き。二人の人ありて之を言へり。即ちモ一セとエリヤなり。榮光の中に現れて。と。イエスのエルサレムにて既や世を遊んとする事を請る。と。ペテロおよび偕に在し者等。いたく驚たりし。が巴に醒てイエスの榮光。また偕に立る。二人を見たり。と。この二人のイエス

ルカ九章八節  
マテ九章九節  
マテ九章十節  
マテ九章十一節  
マテ九章十二節  
マテ九章十三節  
マテ九章十四節  
マテ九章十五節  
マテ九章十六節  
マテ九章十七節  
マテ九章十八節  
マテ九章十九節  
マテ九章二十節  
マテ九章二十一節  
マテ九章二十二節  
マテ九章二十三節  
マテ九章二十四節  
マテ九章二十五節  
マテ九章二十六節  
マテ九章二十七節  
マテ九章二十八節  
マテ九章二十九節  
マテ九章三十節  
マテ九章三十一節  
マテ九章三十二節  
マテ九章三十三節  
マテ九章三十四節  
マテ九章三十五節  
マテ九章三十六節  
マテ九章三十七節  
マテ九章三十八節  
マテ九章三十九節  
マテ九章四十節  
マテ九章四十一節  
マテ九章四十二節  
マテ九章四十三節  
マテ九章四十四節  
マテ九章四十五節  
マテ九章四十六節  
マテ九章四十七節  
マテ九章四十八節  
マテ九章四十九節  
マテ九章五十節  
マテ九章五十一節  
マテ九章五十二節  
マテ九章五十三節  
マテ九章五十四節  
マテ九章五十五節  
マテ九章五十六節  
マテ九章五十七節  
マテ九章五十八節  
マテ九章五十九節  
マテ九章六十節

三三 三二 三十一 三十 二十九 二十八 二十七 二十六 二十五 二十四 二十三 二十二 二十一 二十 十九 十八 十七 十六 十五 十四 十三 十二 十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

マ 本七〇十四卷二一四九  
 C 十四卷中七  
 二 卷二〇七  
 三 本七〇二卷三、四九  
 四 本七〇二卷三、四九  
 五 本七〇二卷三、四九

三三 三九 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

と別るゝ時ペテロイエスに曰けるハ師よ此に居ハ善われらに三の魔を建  
 せ給へ一ハ爾れため一ハモ一セのため一ハモヤヤハ爲にせん此ハ其言と  
 ころを知らざりし世言かく言ると言ふ雲きたりて彼等を蓋へも其雲に入しと  
 き弟子たち懼ぬ聲雲より出て曰けるハ此ハ我愛子あり之に聽べし其聲  
 寂たれば惟イエス一人を見たり弟子たち口を織て見たりし事を當時ハ誰  
 にも告ざりき○三翌日山より下りければ甚多の人々イエスを迎ふ 三六其中  
 の戒一人よバミよりて曰けるハ師よ願くハ我子を眷顧たまへ此ハ我獨子あ  
 るに無鬼の爲に憑れてハ忽然さけび泡をふき拘擲られて傷み離るゝこ  
 と實に難云 四一我これを逐出す事を爾の弟子に求しかば能ざりき 四二イエス  
 答て曰ける之隱信亦き悖逆世ある哉われ爾曹の中に爾曹を恐て幾何時わ  
 らんや爾が子を此小携來れ 四三來ハ惡鬼かれを傾跌て拘擲ぬイエス汚たる  
 鬼を斥て其子を醫し父に手へたり 四四衆人みな奇神の大なる能を駭きイエス  
 の行し事を異める時にイエス弟子ハ曰ける之四此言を爾曹耳に藏めよ夫

リ 卷二〇五十八卷四、四  
 二〇六  
 九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 二十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 三十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 四十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 五十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 六十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 七十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 八十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十一 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十二 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十三 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十四 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十五 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十六 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十七 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十八 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 九十九 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七  
 一〇〇 本十八〇二卷一四九〇  
 三 卷四十七

人の子ハ人の手に付されん 四五彼等の言を悟ざりし悟ざるやう隠された  
 る也彼等もまた懼て此事を問ざりき 四六弟子等れうち互に誰か大ならん  
 と此争論ありければイエス其心の念を知て孩子をとり側にたてて 四七彼  
 等に曰けるハ我名は爲に此孩子を接る者ハ即ち我を接るなり 四八我を接る者  
 ハ我を遺しし者を接るなり凡て爾曹がうち最も小者なれば大ならん 四九ヨハ  
 ン答て曰けるハ師よ爾の名に托て鬼を逐出せる者を見たりしが我儕と共  
 に従ハざる故これに禁たり 五〇イエス曰けるハ禁ること勿れ我儕に敵抗ス  
 る者ハ我儕に屬者なり 五一イエス天に升るの期いたりければエルサレム  
 に往て之を確定めたり 五二使者等を先に遣しければ彼等ゆきてイエスに備  
 人が爲サマリア人の郷に入しに 五三郷人らのエルサレムに向行さまなるが  
 故にイエスを納ざりき 五四弟子のヤコブヨハン此事を見て曰けるハ主よ我  
 儕ハエリヤの行し如く天より火を召降し彼等を滅びんとす可か 五五イエス願  
 みて之を責め曰けるハ爾曹の心如何なる乎を自ら知るなり 五六人の子ハ

ウ 六〇九第廿五

非 五十九〇世

ノ 長一〇六

ク 五九〇世八 四〇九

キ 六〇六

ク 五九〇世八 四〇九

キ 六〇六

ク 五九〇世八 四〇九

五七

五八

五九

六〇

六一

六二

六三

六四

六五

六六

六七

六八

六九

七〇

七一

七二

七三

七四

七五

七六

七七

七八

七九

八〇

八一

八二

八三

人の命を滅す爲に來ず惟これに救ふ爲あり遂に他の郷に往り○五路を行

んき或人イエスに曰けるハ主よ何處に往たまふとも我從ハ人イエス彼

に曰けるハ狐ハ穴あり天空ハ鳥ハ巢あり然も人ハ子ハ枕する所なし五

又わ一人に曰けるハ我に從ハ彼に曰けるハ主よ先ゆきて父を葬る事を

を言よ又わ一人に曰けるハ主よ爾に從ハ先ゆきて家人に別を告ると

を容せ三イエスに曰けるハ手を擧げて後を顧る者ハ神の國に當ざる者也

爾後此後主また七十人を立て之を兩個づゝに分ち自ら至んとする諸邑

諸地へ前を遣さんどて二彼等も曰けるハ奴隷ハ多く工人ハ少し故わろけ

様主ハ工人を収稼所を遣んことを求べし三往われ爾曹を遣す之羔を狼の

なかわ入るが如し四囊また旅袋履をも携てど勿れ途わて人小間候をりす

る勿れ五人の家ハ人ハ先其家ハ安全からん事を求人六若くハ安全は子

わらハ爾曹が祈る安全之其家ハ留らん若まからずハ其祈る安全さんぢら

お歸べし七其家ハ居りて供る所はもけ之を飲食せよ蓋工人ハ其工銀

を獲ハ宜なればなり家より家ハ移ることと爲ざれば邑ハ人ハ入る者ハ

らハ其さんぢらハ前ハ供る者ハ食せよ九邑ハ中なる病ハ者ハ醫せ亦衆人

ハ神ハ國ハ爾曹ハ近けりといふし邑ハ人ハ入る者ハなくハ爾曹ハ出で曰

ハ我儕ハ沾たる爾が邑ハ塵ハ爾曹ハ對て拂然ども神ハ國ハ近けるを知

十二わハ爾曹ハ告人其日いたらハバトムハ刑罰ハ此邑よりも却て易かるべ

十三わハ禍なる哉コラジンよ噫禍ある哉ベテラサイダハ爾曹ハ中行し異

能を若ツコロトシトハ行しならハ彼等ハ早く麻を食灰を糞り坐して悔改

しあるべし十四推判にハツコロトシトハ刑罰ハ爾曹よりも却て易からん

巴ハ天ハ主で擧らむたるカペナツツトハ又陰府に落ざるべし十五爾曹ハ聽者

之我に聽あり爾曹を棄る者之我を棄るあり我を棄る者之我を遣し者之

棄るあり○十七七十八喜び返りて曰けるハ主よ惡鬼さハ爾曹ハ名に囚て我

儕ハ服せり十八イエス曰けるハわハ電ハ如くサクソンの天よりも閉るを見し五

コ 本一〇二  
番前九〇四至十四、加六〇

エ 番前七〇七

チ 本三三〇七

フ 本三五五至一八〇六

サ 本一〇五至一〇六

キ 本一〇四至一〇五

エ 本三〇六

ヌ 本一〇二  
九〇二至一〇八



九 本七〇七節十一、約六〇  
 十 三、八〇七、四九〇十二  
 十一 本七〇七節十一、約六〇  
 十二 本七〇七節十一、約六〇  
 十三 本七〇七節十一、約六〇  
 十四 本七〇七節十一、約六〇  
 十五 本七〇七節十一、約六〇  
 十六 本七〇七節十一、約六〇  
 十七 本七〇七節十一、約六〇  
 十八 本七〇七節十一、約六〇  
 十九 本七〇七節十一、約六〇  
 二十 本七〇七節十一、約六〇

九 べし我なんぢらに告ん求よ然バ子られ尋よ然バわひ門を叩よ然バ啓る  
 十 ことを得ん蓋すべて求る者ハ得たづぬる者ハわひ門を叩者ハ啓るれ  
 十一 爾曹のうち父たる者誰か其子のパンを求んに石を子んや魚を求ん  
 十二 其に代て蛇を子んや土卵を求んに糠を子んや土然バ爾曹愚者ながら善  
 賜をうの兒曹に子るを知らして天に在す爾曹の父ハ求る者に聖靈を子び  
 十三 らん平○言イエス瘡腫なる悪鬼を逐出しけるに悪鬼いづく瘡腫ものいひ  
 十四 しかバ人々駭けり其中心なる者の曰けるハ彼ハ悪鬼の王ベルゼブルに藉  
 十五 て悪鬼を逐出せる地又あわ人々イエスを試んどて天よりの休徴を求た  
 十六 り也若サタンも自ら分争ハ其國いかに立んや其なんぢら我を言て  
 十七 ベルゼブルに藉て悪鬼を逐出すせり若われベルゼブルに藉て悪鬼を  
 十八 逐出さバ爾曹の子弟ハ誰に藉て悪鬼を逐出すや夫かれらハ爾曹の裁判人  
 十九 と爲べし若われ神の指をもて悪鬼を逐出たるならバ神の國ハ既や爾曹

一 辭七〇四、  
 二 本七〇七節十一、約六〇  
 三 本七〇七節十一、約六〇  
 四 本七〇七節十一、約六〇  
 五 本七〇七節十一、約六〇  
 六 本七〇七節十一、約六〇  
 七 本七〇七節十一、約六〇  
 八 本七〇七節十一、約六〇  
 九 本七〇七節十一、約六〇  
 十 本七〇七節十一、約六〇  
 十一 本七〇七節十一、約六〇  
 十二 本七〇七節十一、約六〇  
 十三 本七〇七節十一、約六〇  
 十四 本七〇七節十一、約六〇  
 十五 本七〇七節十一、約六〇  
 十六 本七〇七節十一、約六〇  
 十七 本七〇七節十一、約六〇  
 十八 本七〇七節十一、約六〇  
 十九 本七〇七節十一、約六〇  
 二十 本七〇七節十一、約六〇

四 意ざるか彼に命じて我を助しめよ一イエス答て曰けるハマルタよマルタ  
 五 爾多端により思慮ひて心勞せり然だ無て叫ぶまじき者ハ一か  
 六 かりアハ既に善業を撰えり此は彼より奉べからざる者なり  
 七 イエス某所にて祈禱しけるに畢しどき一人の弟子いひけるハ主  
 八 ヨハ子其弟子に教し如く我儕にも禱ることを教たまへ一イエス曰ける  
 九 ハ祈る時は斯いふべし天に在す我儕の父よ願くは聖名を尊崇させ給へ爾  
 十 國を臨らせ給へ爾旨の天に成ごせとく地にも成せ給へ一我儕の日用の糧を  
 十一 毎日に與たまへ一我儕に罪を犯す者を凡て免せバ我儕の罪をも免し給へ  
 十二 我儕を試探に遇せず惡より拯出し給へまた彼等に曰けるハ爾曹の中も  
 十三 し或ハ夜半に其友へ往て友よ我が朋輩旅より來しに供べき物なきゆゑ三  
 十四 のパンを借よと曰んに七内に居るもの答て我を煩はす勿き既や門ハ閉わま  
 十五 と共に見曹も牀に在バ起て子ること能すといふ者わらん乎ハ我れあんぢら  
 十六 に告ん其友なるにより起て子ざれ雖ひたすら請が故に其需に從ひ起て子









一	ルカ二〇三節八〇
二	ルカ二〇五節〇七
三	ルカ二〇六節〇七
四	ルカ二〇七節〇九
五	ルカ二〇八節〇七
六	ルカ二〇九節〇九
七	ルカ二一〇節〇七
八	ルカ二一一節〇七
九	ルカ二一二節〇七
十	ルカ二一三節〇七
十一	ルカ二一四節〇七
十二	ルカ二一五節〇七
十三	ルカ二一六節〇七
十四	ルカ二一七節〇七
十五	ルカ二一八節〇七
十六	ルカ二一九節〇七
十七	ルカ二二〇節〇七
十八	ルカ二二一節〇七
十九	ルカ二二二節〇七
二十	ルカ二二三節〇七
二十一	ルカ二二四節〇七
二十二	ルカ二二五節〇七
二十三	ルカ二二六節〇七
二十四	ルカ二二七節〇七
二十五	ルカ二二八節〇七
二十六	ルカ二二九節〇七
二十七	ルカ二三〇節〇七
二十八	ルカ二三一節〇七
二十九	ルカ二三二節〇七
三十	ルカ二三三節〇七
三十一	ルカ二三四節〇七
三十二	ルカ二三五節〇七
三十三	ルカ二三六節〇七
三十四	ルカ二三七節〇七
三十五	ルカ二三八節〇七
三十六	ルカ二三九節〇七
三十七	ルカ二四〇節〇七
三十八	ルカ二四一節〇七
三十九	ルカ二四二節〇七
四十	ルカ二四三節〇七
四十一	ルカ二四四節〇七
四十二	ルカ二四五節〇七
四十三	ルカ二四六節〇七
四十四	ルカ二四七節〇七
四十五	ルカ二四八節〇七
四十六	ルカ二四九節〇七
四十七	ルカ二五〇節〇七
四十八	ルカ二五一節〇七
四十九	ルカ二五二節〇七
五十	ルカ二五三節〇七
五十一	ルカ二五四節〇七
五十二	ルカ二五五節〇七
五十三	ルカ二五六節〇七
五十四	ルカ二五七節〇七
五十五	ルカ二五八節〇七
五十六	ルカ二五九節〇七
五十七	ルカ二六〇節〇七
五十八	ルカ二六一節〇七
五十九	ルカ二六二節〇七
六十	ルカ二六三節〇七
六十一	ルカ二六四節〇七
六十二	ルカ二六五節〇七
六十三	ルカ二六六節〇七
六十四	ルカ二六七節〇七
六十五	ルカ二六八節〇七
六十六	ルカ二六九節〇七
六十七	ルカ二七〇節〇七
六十八	ルカ二七一節〇七
六十九	ルカ二七二節〇七
七十	ルカ二七三節〇七
七十一	ルカ二七四節〇七
七十二	ルカ二七五節〇七
七十三	ルカ二七六節〇七
七十四	ルカ二七七節〇七
七十五	ルカ二七八節〇七
七十六	ルカ二七九節〇七
七十七	ルカ二八〇節〇七
七十八	ルカ二八一節〇七
七十九	ルカ二八二節〇七
八十	ルカ二八三節〇七
八十一	ルカ二八四節〇七
八十二	ルカ二八五節〇七
八十三	ルカ二八六節〇七
八十四	ルカ二八七節〇七
八十五	ルカ二八八節〇七
八十六	ルカ二八九節〇七
八十七	ルカ二九〇節〇七
八十八	ルカ二九一節〇七
八十九	ルカ二九二節〇七
九十	ルカ二九三節〇七
九十一	ルカ二九四節〇七
九十二	ルカ二九五節〇七
九十三	ルカ二九六節〇七
九十四	ルカ二九七節〇七
九十五	ルカ二九八節〇七
九十六	ルカ二九九節〇七
九十七	ルカ三〇〇節〇七
九十八	ルカ三〇一節〇七
九十九	ルカ三〇二節〇七
一百	ルカ三〇三節〇七
一百一	ルカ三〇四節〇七
一百二	ルカ三〇五節〇七
一百三	ルカ三〇六節〇七
一百四	ルカ三〇七節〇七
一百五	ルカ三〇八節〇七
一百六	ルカ三〇九節〇七
一百七	ルカ三一〇節〇七
一百八	ルカ三一一節〇七
一百九	ルカ三一二節〇七
一百十	ルカ三一三節〇七
一百一十	ルカ三一四節〇七
一百一十一	ルカ三一五節〇七
一百一十二	ルカ三一六節〇七
一百一十三	ルカ三一七節〇七
一百一十四	ルカ三一八節〇七
一百一十五	ルカ三一九節〇七
一百一十六	ルカ三二〇節〇七
一百一十七	ルカ三二一節〇七
一百一十八	ルカ三二二節〇七
一百一十九	ルカ三二三節〇七
一百二十	ルカ三二四節〇七
一百二十一	ルカ三二五節〇七
一百二十二	ルカ三二六節〇七
一百二十三	ルカ三二七節〇七
一百二十四	ルカ三二八節〇七
一百二十五	ルカ三二九節〇七
一百二十六	ルカ三三〇節〇七
一百二十七	ルカ三三一節〇七
一百二十八	ルカ三三二節〇七
一百二十九	ルカ三三三節〇七
一百三十	ルカ三三四節〇七
一百三十一	ルカ三三五節〇七
一百三十二	ルカ三三六節〇七
一百三十三	ルカ三三七節〇七
一百三十四	ルカ三三八節〇七
一百三十五	ルカ三三九節〇七
一百三十六	ルカ三四〇節〇七
一百三十七	ルカ三四一節〇七
一百三十八	ルカ三四二節〇七
一百三十九	ルカ三四三節〇七
一百四十	ルカ三四四節〇七
一百四十一	ルカ三四五節〇七
一百四十二	ルカ三四六節〇七
一百四十三	ルカ三四七節〇七
一百四十四	ルカ三四八節〇七
一百四十五	ルカ三四九節〇七
一百四十六	ルカ三五十節〇七
一百四十七	ルカ三五一節〇七
一百四十八	ルカ三五二節〇七
一百四十九	ルカ三五三節〇七
一百五十	ルカ三五四節〇七
一百五十一	ルカ三五五節〇七
一百五十二	ルカ三五六節〇七
一百五十三	ルカ三五七節〇七
一百五十四	ルカ三五八節〇七
一百五十五	ルカ三五九節〇七
一百五十六	ルカ三六〇節〇七
一百五十七	ルカ三六一節〇七
一百五十八	ルカ三六二節〇七
一百五十九	ルカ三六三節〇七
一百六十	ルカ三六四節〇七
一百六十一	ルカ三六五節〇七
一百六十二	ルカ三六六節〇七
一百六十三	ルカ三六七節〇七
一百六十四	ルカ三六八節〇七
一百六十五	ルカ三六九節〇七
一百六十六	ルカ三七〇節〇七
一百六十七	ルカ三七一節〇七
一百六十八	ルカ三七二節〇七
一百六十九	ルカ三七三節〇七
一百七十	ルカ三七四節〇七
一百七十一	ルカ三七五節〇七
一百七十二	ルカ三七六節〇七
一百七十三	ルカ三七七節〇七
一百七十四	ルカ三七八節〇七
一百七十五	ルカ三七九節〇七
一百七十六	ルカ三八〇節〇七
一百七十七	ルカ三八一節〇七
一百七十八	ルカ三八二節〇七
一百七十九	ルカ三八三節〇七
一百八十	ルカ三八四節〇七
一百八十一	ルカ三八五節〇七
一百八十二	ルカ三八六節〇七
一百八十三	ルカ三八七節〇七
一百八十四	ルカ三八八節〇七
一百八十五	ルカ三八九節〇七
一百八十六	ルカ三九〇節〇七
一百八十七	ルカ三九一節〇七
一百八十八	ルカ三九二節〇七
一百八十九	ルカ三九三節〇七
一百九十	ルカ三九四節〇七
一百九十一	ルカ三九五節〇七
一百九十二	ルカ三九六節〇七
一百九十三	ルカ三九七節〇七
一百九十四	ルカ三九八節〇七
一百九十五	ルカ三九九節〇七
一百九十六	ルカ四〇〇節〇七
一百九十七	ルカ四〇一節〇七
一百九十八	ルカ四〇二節〇七
一百九十九	ルカ四〇三節〇七
二百	ルカ四〇四節〇七

一	ルカ二〇三節八〇
二	ルカ二〇五節〇七
三	ルカ二〇六節〇七
四	ルカ二〇七節〇九
五	ルカ二〇八節〇七
六	ルカ二〇九節〇九
七	ルカ二一〇節〇七
八	ルカ二一一節〇七
九	ルカ二一二節〇七
十	ルカ二一三節〇七
十一	ルカ二一四節〇七
十二	ルカ二一五節〇七
十三	ルカ二一六節〇七
十四	ルカ二一七節〇七
十五	ルカ二一八節〇七
十六	ルカ二一九節〇七
十七	ルカ二二〇節〇七
十八	ルカ二二一節〇七
十九	ルカ二二二節〇七
二十	ルカ二二三節〇七
二十一	ルカ二二四節〇七
二十二	ルカ二二五節〇七
二十三	ルカ二二六節〇七
二十四	ルカ二二七節〇七
二十五	ルカ二二八節〇七
二十六	ルカ二二九節〇七
二十七	ルカ二三〇節〇七
二十八	ルカ二三一節〇七
二十九	ルカ二三二節〇七
三十	ルカ二三三節〇七
三十一	ルカ二三四節〇七
三十二	ルカ二三五節〇七
三十三	ルカ二三六節〇七
三十四	ルカ二三七節〇七
三十五	ルカ二三八節〇七
三十六	ルカ二三九節〇七
三十七	ルカ二四〇節〇七
三十八	ルカ二四一節〇七
三十九	ルカ二四二節〇七
四十	ルカ二四三節〇七
四十一	ルカ二四四節〇七
四十二	ルカ二四五節〇七
四十三	ルカ二四六節〇七
四十四	ルカ二四七節〇七
四十五	ルカ二四八節〇七
四十六	ルカ二四九節〇七
四十七	ルカ二五〇節〇七
四十八	ルカ二五一節〇七
四十九	ルカ二五二節〇七
五十	ルカ二五三節〇七
五十一	ルカ二五四節〇七
五十二	ルカ二五五節〇七
五十三	ルカ二五六節〇七
五十四	ルカ二五七節〇七
五十五	ルカ二五八節〇七
五十六	ルカ二五九節〇七
五十七	ルカ二六〇節〇七
五十八	ルカ二六一節〇七
五十九	ルカ二六二節〇七
六十	ルカ二六三節〇七
六十一	ルカ二六四節〇七
六十二	ルカ二六五節〇七
六十三	ルカ二六六節〇七
六十四	ルカ二六七節〇七
六十五	ルカ二六八節〇七
六十六	ルカ二六九節〇七
六十七	ルカ二七〇節〇七
六十八	ルカ二七一節〇七
六十九	ルカ二七二節〇七
七十	ルカ二七三節〇七
七十一	ルカ二七四節〇七
七十二	ルカ二七五節〇七
七十三	ルカ二七六節〇七
七十四	ルカ二七七節〇七
七十五	ルカ二七八節〇七
七十六	ルカ二七九節〇七
七十七	ルカ二八〇節〇七
七十八	ルカ二八一節〇七
七十九	ルカ二八二節〇七
八十	ルカ二八三節〇七
八十一	ルカ二八四節〇七
八十二	ルカ二八五節〇七
八十三	ルカ二八六節〇七
八十四	ルカ二八七節〇七
八十五	ルカ二八八節〇七
八十六	ルカ二八九節〇七
八十七	ルカ二九〇節〇七
八十八	ルカ二九一節〇七
八十九	ルカ二九二節〇七
九十	ルカ二九三節〇七
九十一	ルカ二九四節〇七
九十二	ルカ二九五節〇七
九十三	ルカ二九六節〇七
九十四	ルカ二九七節〇七
九十五	ルカ二九八節〇七
九十六	ルカ二九九節〇七
九十七	ルカ三〇〇節〇七
九十八	ルカ三〇一節〇七
九十九	ルカ三〇二節〇七
一百	ルカ三〇三節〇七
一百一	ルカ三〇四節〇七
一百二	ルカ三〇五節〇七
一百三	ルカ三〇六節〇七
一百四	ルカ三〇七節〇七
一百五	ルカ三〇八節〇七
一百六	ルカ三〇九節〇七
一百七	ルカ三一〇節〇七
一百八	ルカ三一〇節〇七
一百九	ルカ三一〇節〇七
二百	ルカ三一〇節〇七

難し事をイエスに告る者ありニイエス答て彼等に曰けるハ爾曹此ガリラ  
 ヤ人の如く寄されし故に凡のガリラヤ人よりも益りて罪ある者と思  
 ふや我れなんぢらに告ん然亦爾曹悔改めずハ皆おあしく亡びるべし  
 プラムの塔たふれて壓死されし十八人のエルサレムに住る凡の人々より  
 も益りて罪ある者と思ふやわれ爾曹に告ん然亦爾曹悔改めずハ皆おあ  
 しく亡びるべし又この譬を云り或人の葡萄園に植おきたる無花果樹  
 わりしが來て之に果を求めば亦得ざりければ其園丁に曰けるハ我三年  
 きたりて此無花果樹に果を求めば亦得ず之を斫され何ん徒らに地を塞や  
 園丁てたへけるハ主よ我々の葡萄園を掘て之に糞するやで今年も容せ  
 むし果を結ばば善よし結ばずハ後に之を斫べし○イエス安息日に或會堂  
 にて教しに十八年鬼に患されたる婦あり僂僕て少く伸るべし能ざりき  
 士イエス之を見てよび婦よ爾ハ其病より釋さるべしと曰て手て婦に接け  
 れハ直に伸て神を讚美たり十四會堂の宰イエスの安息日に醫したる事を怒り

きたへて衆人に曰けるハ事を爲すべきの日六日あれば其中に來りて醫さる  
 べし安息日に爲ざれば主かれに答て曰けるハ偽善者よ爾曹おのゝ安息  
 日にハ其年や驢をどき驢より牽出して水を飲さるる平況て此婦ハアブ  
 ラハムの裔なり十八年サタンに縛られたる其結を安息日に解べからざら  
 ん乎士イエス如此に曰ければ敵對しし者みな慚歎又衆人みな其行し惡惠  
 ごとくを喜べり士イエスまた曰けるハ神の國ハ何に比へ又なにく譬んや  
 一粒の芥種からし花種の如し人これを取て其園に播べ長生て大なる樹となり天空の  
 鳥々の枝に棲なり又いひけるハ我神の國を何に譬んや三麩たんねの如し婦  
 此を取て三斗の粉の中に納せば盡く發出すなり○士イエス教つく各城  
 各郷を過エルサレムに向て旅行り三或人いひけるハ主よ救はる者ハ少き  
 乎士イエス彼等に曰けるハ窄門に入ためわ力を盡せ我れなんぢらも告ん人  
 九事を求て能ざる者おほし家の主人おきて門を閉し後に爾曹外にたち  
 門を叩て主よ主よ我に啓と曰んに主人てたへて我れなんぢらハ何處より來

九	路加六章六節
十	馬三章二節
十一	路加二章十節三十四節
十二	路加二章十四節
十三	路加二章十四節
十四	路加二章十四節
十五	路加二章十四節
十六	路加二章十四節
十七	路加二章十四節
十八	路加二章十四節
十九	路加二章十四節
二十	路加二章十四節
二十一	路加二章十四節
二十二	路加二章十四節

曹いはん時いたる迄我を見ざるべし

イエス安息日に食事の爲なるパリサイの人の家に入しに

人々かれを窺たりニ其前に腹脹を患ひたる人ありしかバニエス應て教

法師とパリサイの人々に曰けるハ安息日に醫す事ハ宜や否ヨカレラ然

たりイエスカの人を執へ醫して之を去しめニ彼等に答て曰けるハ爾曹の

うち誰カ驢あるハ牛な迄の所に陥たらんに安息日にハ遽かに曳出さ

る乎ニ彼等この言に就て對ることを能ざりき○七斯て其席を請れたる人々

の首席を擇を見てイエス譬を以て彼等に曰けるハなんぢ婚筵に請れん

とさ首席に坐すること勿れ恐クハ爾より尊人まねかれなバ彼と爾を請

し者きたりて此人に座を譲れと曰ん然バ爾蓋て末座に往べしニ是故に爾

まねかれん時ハ往て末座に坐せよ請し者來りて友よ首席に進ど爾と言バ

同席の者の前に爾尊まるとべし凡ら自ら高ぶる者ハ卑され自ら卑なる者

ハ高くせらるべし又かれを請る者に曰けるハ爾午餐あるハハ晚餐を設

二六	路加八章五章四十二
二七	路加八章五章四十二
二八	路加八章五章四十二
二九	路加八章五章四十二
三〇	路加八章五章四十二
三一	路加八章五章四十二
三二	路加八章五章四十二
三三	路加八章五章四十二
三四	路加八章五章四十二
三五	路加八章五章四十二
三六	路加八章五章四十二
三七	路加八章五章四十二
三八	路加八章五章四十二
三九	路加八章五章四十二
四〇	路加八章五章四十二
四一	路加八章五章四十二
四二	路加八章五章四十二
四三	路加八章五章四十二
四四	路加八章五章四十二
四五	路加八章五章四十二
四六	路加八章五章四十二
四七	路加八章五章四十二
四八	路加八章五章四十二
四九	路加八章五章四十二
五〇	路加八章五章四十二
五一	路加八章五章四十二
五二	路加八章五章四十二
五三	路加八章五章四十二
五四	路加八章五章四十二
五五	路加八章五章四十二
五六	路加八章五章四十二
五七	路加八章五章四十二
五八	路加八章五章四十二
五九	路加八章五章四十二
六〇	路加八章五章四十二
六一	路加八章五章四十二
六二	路加八章五章四十二
六三	路加八章五章四十二
六四	路加八章五章四十二
六五	路加八章五章四十二
六六	路加八章五章四十二
六七	路加八章五章四十二
六八	路加八章五章四十二
六九	路加八章五章四十二
七〇	路加八章五章四十二
七一	路加八章五章四十二
七二	路加八章五章四十二
七三	路加八章五章四十二
七四	路加八章五章四十二
七五	路加八章五章四十二
七六	路加八章五章四十二
七七	路加八章五章四十二
七八	路加八章五章四十二
七九	路加八章五章四十二
八〇	路加八章五章四十二
八一	路加八章五章四十二
八二	路加八章五章四十二
八三	路加八章五章四十二
八四	路加八章五章四十二
八五	路加八章五章四十二
八六	路加八章五章四十二
八七	路加八章五章四十二
八八	路加八章五章四十二
八九	路加八章五章四十二
九〇	路加八章五章四十二
九一	路加八章五章四十二
九二	路加八章五章四十二
九三	路加八章五章四十二
九四	路加八章五章四十二
九五	路加八章五章四十二
九六	路加八章五章四十二
九七	路加八章五章四十二
九八	路加八章五章四十二
九九	路加八章五章四十二
一〇〇	路加八章五章四十二

しか知すと曰ん三然る時に我儕ハ爾の前に食飲し爾また我儕の儻に教た

りしと言出さんに主人てたへて我なんぢらに告ん何處より來しか知す

智愚を爲す者よ我を去と曰ん三爾曹アブラハムイサクヤコブ及ビ凡の

預言者ハ神の國に在て爾曹ハ外に搜出ざるをを見ん時ハ哀哭切齒すること

有べしニま女ハ人々西や東北や南より來りて神の國に坐するならん三爾

後の者ハ先に先の者ハ後に爲べし○三當日あるパリサイの人々來りてイ

エスに曰けるハニエス爾を殺さんとする故に此を離往ニ答て曰けるハ爾

曹ゆきて其狐に告よ我今日惡鬼を逐出し病を醫し第三日に此事をば

らん三然ても今日明日また次日ハ我かならず行べし蓋預言者ハエルサレ

ムの外に殺るること有ねバ也三臆エルサレムエルサレム預言者を殺

し爾に遣はれし者を石にて撃る者よ母鷄の雛を翼の下に集むる如く我な

んぢの赤子を集んと爲しこと幾回ぞや爾曹ハ欲す五視よ爾曹の家ハ墟と

爲て遺さるべし誠に我なんぢらよ告ん主人の名に記て來る者ハ福なりと爾

七 本五〇五五五〇一  
 六 路五〇九  
 五 本五〇三  
 四 本二〇三  
 三 本九〇九  
 二 本五〇三  
 一 本九〇九

其報答を爲ん三爾三筵三を爲ば三貧三乏三癱疾三跛者三替者三な三を三請三け三然三ば三爾三  
 其報答を爲ん三爾三筵三を爲ば三貧三乏三癱疾三跛者三替者三な三を三請三け三然三ば三爾三  
 爾三なるべし三蓋三彼三等三爾三に三報三す三義三々三人三々三の三匙三ら三ん三其三時三な三ん三が三に三報三答三  
 われば三也三同三に三食三せる三者三の三一三人三之三を三開三て三イ三エ三ス三に三曰三ける三爾三の三國三に三食三す  
 る者三の三福三亦三り三イ三エ三ス三彼三に三曰三ける三或三人三お三ほ三い三なる三筵三を三設三て三多三賢三を三請三け  
 り三筵三の三と三き三僕三を三其三請三たる三者三に三遣三して三百三物三は三や三備三た三れ三ば三來三る三べ三し三と三言三せ  
 ける三に三彼三等三み三な三同三く三辭三ぬ三其三始三の三者三か三れ三お三曰三ける三我三田三地三を三買三た三れば三往三  
 て三視三ざる三を三得三志三願三く三我三を三允三し三給三へ三又三一三人三の三者三い三ひ三ける三我三五三糶三の三半三  
 を三買三た三れ三ば三之三を三試三む三る三爲三に三往三ん三願三く三我三を三允三し三給三へ三又三一三人三の三者三い三ひ三け  
 る三我三妻三を三娶三たり三是三故三に三往三て三之三を三得三ざる三也三其三僕三か三へ三り三て三此三事三を三主三人三か  
 告三げ三れ三ば三主三人三怒三て三其三僕三に三曰三ける三速三の三小三邑三の三獨三巻三に三往三て三貧三者三癱三疾三跛  
 者三替三者三亦三之三を三此三小三引三來三れ三僕三に三曰三ける三主三人三の三如三く三行三り三然三悉三尚三わ三ま三り三  
 座三わ三り三主三人三僕三に三曰三ける三道三路三や三藩三籬三の三邊三に三ゆ三き三強三て三人三々三を三引三來三り三我三家

八 本二〇四十三、律十三〇  
 七 本二〇四十四、律十三〇  
 六 本二〇四十五、律十三〇  
 五 本二〇四十六、律十三〇  
 四 本二〇四十七、律十三〇  
 三 本二〇四十八、律十三〇  
 二 本二〇四十九、律十三〇

に三盈三し三め三よ三我三ら三な三ら三に三告三ん三彼三ま三ぬ三き三た三る三人三々三の三一三人三だ三に三我三變三を三償三ふ  
 者三亦三し三○三多三の三人三々三イ三エ三ス三と三僮三に三行三し三が三イ三エ三ス三爾三み三て三彼三等三に三曰三ける三は三三  
 凡三う三我三ら三お三來三て三そ三の三父三母三妻三子三兄三弟三姉三妹三ま三た三己三の三生三命三を三も三憎三む三者三に三非三ざ三れ三ば  
 我三弟三子三と三爲三之三を三得三ず三又三そ三の三十三字三架三を三任三ず三して三我三に三從三ん三人三我三弟三子三と三爲三  
 こと三を三得三ず三三三人三な三ら三に三誰三か三城三を三築三か三ん三に三先三坐三して三其三費三之三の三事三の三竣三まで三に三  
 足三や三否三を三計三ざ三ら三ん三乎三恐三く三の三基三を三置三て三之三を三成三能三ず三ば三見三者三み三な三嘲三笑三て三此三  
 人三の三築三始三て三成三遂三ぎ三り三し三と三曰三ん三ま三た三王三い三で三も三他三の三王三と三戰三之三に三先三坐三して  
 此三一三萬三人三を三も三て三彼三が三二三萬三人三に三敵三す三べ三き三や三否三を三籌三ざ三ら三ん三乎三も三し三及三ず三ば三敵  
 不三慮三遠三れる三時三に三使三を三遣三して三和三睦三を三求三べ三し三然三ば三此三の三如三く三爾三曹三の三所三有三を  
 盡三く三捨三ぎ三る三者三は三我三弟三子三と三爲三之三を三得三ず三鹽三は三善三物三なり三然三ぞ三も三鹽三の三味三を  
 失三は三何三を三も三て三之三に三味三を三和三ん三や三田三にも三糞三も三益三なく三外三に三棄三ら三る三く三なり  
 耳三わ三り三て三聽三る三者三は三聽三べ三し  
 爾三時三に三猶三更三と三罪三わ三る三者三せ三も三イ三エ三ス三お三聽三ん三と三て三近三より三け三れ三ば三ニ三バ三リ

サノ人ト學者ヲモテ譏誚テ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 三ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 四ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 五ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 六ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 七ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 八ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 九ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 十ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 十一ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 十二ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 十三ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ  
 十四ノ人ハ此ノ人ト云フ者ニ對シテ曰クハ此ノ人ハ罪ヲ犯スル人ニ接リテ共ニ食セリ

マ太八〇三三

ル路九〇一

マ太九〇一

ル路九〇二

マ太九〇三

ル路九〇四

マ太九〇五

ル路九〇六

マ太九〇七

ル路九〇八

マ太九〇九

ル路九一〇

マ太九一一

ル路九一二

マ太九一三

ル路九一四

マ太九一五

十五 とき大なる饑饉ノ地に有テ彼どもしく爲はじめけれバ十五 往テ其地ノ一  
 十六 民ニ身ヲ投テ其人家ヲ收タメニ彼ヲ野ニ遣セリ十六 かれ家ノ食スル所  
 十七 豆菘ヲもテ己ガ腹ヲ果さん欲ムは豈ニ彼ノ何ヲも彼ニ与ル人ナシ十七 自  
 十八 己ラ省悟テ曰クハ我父ノ所に我父ヲ食スル者多カ有ニ我ハ飢テ  
 十九 死んとす十八 起テ我父ニ往テ曰クハ我父ト我父ト爾ノ前に罪ヲ犯レバ十九 爾ノ  
 二十 子ト稱ルニ足ズル者あり爾ノ傭人ノ一人ノ如ク我ヲ爲タマヘ二十 即チ起  
 二十一 テ其父ニ往リ伺ヒ候ク有シニ其父カ色ヲ見テ憫ム趨キ往リ其頸ヲ抱テ接吻シ  
 二十二 ぬ三子父ニ曰クハ我父ト我父ト爾ノ前に罪ヲ犯タシバ爾ノ子ト稱ルニ足  
 二十三 ズル也二十三 父ノ僕等ハ曰クハ至モ美服ヲ携來リテ之ニ衣セ其指ニ環ヲ  
 二十四 以メ其足ニ履ヲ穿セよ二十三 又肥タル積ヲ奉來リテ寧モ我儕食シテ樂ムん  
 二十五 言是レわガ子死ニ復生スルヲ以テ復得タルバ也二十 彼等ト共ニ樂ミ嬉む五  
 二十六 子ノ兄田ニ在シガ歸テ家ニ近キ樂ト舞ノ音ヲ聞ク三子ノ僕ノ一人ヲ召テ是  
 二十七 何事ヲヤト問ルニ三子ノ僕曰クハ爾ノ弟歸リタルモ善ク彼ヲ得たりしに因

マ太九一六

ル路九一六

マ太九一七

ル路九一七

マ太九一八

ル路九一八

マ太九一九

ル路九一九

マ太九二〇

ル路九二〇

マ太九二一

ル路九二一

六  
五  
四  
三  
二  
三  
三  
三  
二  
一

て爾が父肥たる慣を宰たるなり三兄いかりて入らず是故に其父いで彼に  
勸しかば父に答て曰ける我多年なんぢに事て未だ爾の命に背かず然ぞ  
も我友と樂ひ爲に羔をも子し事なし然に娘の爲に爾の業を耗したる此  
なんぢが子かへせり之が爲に肥たる慣を宰せり三父かれに曰ける子よ  
爾之常に我と共に在また我所有の財を宰せり三爾の弟死て復生す  
しかひて復得たるが故に我儕喜て樂むと當然の事なり  
【説き及ぶ】イエス又その弟子に曰けると或富る人に操會者ありけるが主の  
所有を耗しと主人へ訴へらるる主人操會者を呼て曰けるハ爾に就て我  
ききたる事の何んぞ今後なんぢを操會者と爲えざれば其會計たる條件を  
我に辨よ三操會者みづから意する主人我操會を奪かべ何を爲ん我縛を執  
に力なく施を乞ひ恥かしと曰われ操會を奪れん時ハ是等の家に迎らる  
べき所爲を知らざりて遂に主人の負債人を悉く召て其首の者に曰けるハ  
爾わが主に負債者には違ある乎と答ていふ油百斗なり彼に曰けるハ爾の

七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六

券書を取いつき坐して五十と書よ又一人に曰けるハ爾の負債幾何なる  
や答ていふ小麦百斛なり彼に曰けるハ爾の券書を取て八十と書よ主人  
の所爲の巧かるに因て此不義ある操會者を懲たり夫之の世の子輩ハ此  
世に於て光の子輩よりも尤も巧なり我れなんぢらに告ん不義の財を以て  
己が友を得よ此ハ之からん時彼ら爾曹を永遠宅に接人が爲あり小事に  
思き者ハ大事にも思く小事に思からざる者ハ大事にも思からざる故に若  
なんぢら不義の財に思からずば誰か眞の財を爾曹に託んや三爾曹もし人  
の所有に不義ならば誰か爾曹の所有を爾曹に與んや三一人の僕ハ二人の  
主人に事ると能はず蓋之れを惡かれを變し或ハ此を重んじ彼を輕んずれば  
也なんぢら神と財に乘事ると能はず慾ふかきバリスアの人々此事を聞て  
イエスを嘲嗤たり十五イエス彼等に曰けるハ爾曹ハ人々の前に自己を義と  
する者あり然ぞも神ハ爾曹の心を知り夫人の崇ふ所の者ハ神の前に惡る  
る者あり十六律法と預言者ハヨハナまであり其のも神の國ハ宣傳する皆用

マ 韓十七〇四  
ル 韓十二〇六、六、八、九  
ウ 韓十五〇七、本十九〇  
カ 韓十一〇七、本十九〇  
キ 韓十一〇七、本十九〇  
ク 韓十一〇七、本十九〇  
ケ 韓十一〇七、本十九〇  
コ 韓十一〇七、本十九〇  
カ 韓十一〇七、本十九〇  
キ 韓十一〇七、本十九〇  
ク 韓十一〇七、本十九〇  
ケ 韓十一〇七、本十九〇  
コ 韓十一〇七、本十九〇









五 卅三〇、卅九、卅二〇

六 卅八〇一

七 卅一〇六

八 卅九、卅四、卅三〇、卅

九 卅二〇一

九 人より收たる所あらば四倍にして之を償のふべし、イエス彼に曰けるは、  
 十 今日の家すくひることを得たり。蓋この人もアブラハムの裔なれば也。  
 十一 うれ人の子ハ爽ひし者を尋て救ん爲に來れり。衆人この言を聞る時、  
 十二 尤壁を設て曰り此ハエルサレムに近かつ衆人神の國たよちに顯明るべし。  
 十三 と思が故あり。主わらざる貴者みづから領地を受て歸んとて遠國へ往どき。十三  
 十四 人の僕を召て彼等に金十斤を予て曰ける。我來安で商賣せよ。十四の國民  
 十五 かれを憐て後より使を遣し曰ける。我碎この人を主とする事を欲す。十五領  
 十六 地を受て歸し時、おのゝ商賣して幾何の利を得たるかを知んとて金を予  
 十六 おきたる僕等を召て命じぬ。十六初の一入きたりて曰ける。主よ、爾の一十斤ハ  
 十七 十斤の利を得たり。主主人いひける。ハ善僕よ、爾ハ少者に思ふれ。十六の邑  
 十八 を宰せよ。十六また次の一人きたりて曰ける。主よ、爾の一十斤ハ五斤の利  
 十九 を得たり。十九主人曰ける。爾も五の邑を宰せよ。十九また一人きたりて曰  
 二十 ける。主よ、爾の一十斤此に在われ手巾に裹て藏置たり。二十蓋なんぢ嚴人

六日 路加傳 卅六

二 本卅三、卅五、卅九

三 卅六、卅七

四 卅八、卅九

五 卅九、卅一〇、卅一

六 卅一〇、卅一、卅二

七 卅一〇、卅一、卅二

八 卅一〇、卅一、卅二

三 なるが故に我おうれたり。爾置ざる者をども揺ざる者をか。人なればなり  
 三 三主人いひける。ハ惡僕よ、我かんなちの口に因て爾を轡べし。爾われハ嚴者に  
 三三 て置ざる者を取まかざる者を權と知。三三然に何ぞ我來るとき。本と利を得ん  
 三四 が爲に我金を兌換肆に預ざりしや。三三遂に傍に立る者に曰ける。此人の一  
 三五 斤を取て十斤有る者に予て。三三衆人主人に曰ける。主よ、其人すでに十斤を  
 三六 有り。三主人いひける。ハ我なんぢらに告ん。夫有者ハ予られ。不有者ハ其所有  
 三七 ものせでも取るべし。三三且わが敵すな。ハち我支配を欲ざる者を此に與來り  
 三八 て我前に誅せ。三三イエス此事を言し。ち衆人に先だちて。エルサレムに上れ  
 三九 り。元橄欖と名る山に坐す。ペラバゲと名る山に坐す。三三に近づける時。の弟子二人  
 四十 を遣ざんとて曰ける。ハ三對面の村にゆけ。彼處に入。ハ人の未だ乘ざる所の  
 四一 繫たる驢に懸て。三其を解て牽來れ。三三もし誰か爾曹に何ゆを解やと問者  
 四二 あらば。如此こたふべし。主の用なり。三三遣ざれたる者往ければ。果て其語たま  
 四三 へる如く遇ぬ。三かれら驢を解て。さ其主等かれらに何ぞ驢を解やと曰





又 本二〇四十六  
 三 本二〇四十五至七十五  
 四 本二〇四十四  
 五 可二〇八九  
 六 本三〇四、可二〇四  
 七 本四〇四、可十三  
 八 本四〇四、可十三

等てたへ曰けるハ師よ善いへり此のち敢てイエスに問者なりき〇四  
 一 四五 彼等曰くけるハ人々如何なればキリストをダビデの裔と言や三〇  
 二 四五 自ら詩の篇に主わが主に曰けるハ我なんぢの敵を爾の足登と爲せ  
 三 四五 我が右に坐すべしと言ひ然らばダビデ之を主と稱たれば如何で其裔なら  
 四 四五 民みな之を聽る時々の弟子にいひけるハ長服を衣て遊行てどを  
 五 四五 好み市上にて人の問安會堂の高坐總間の上坐を喜ぶ學者を憤めよ四七 彼等  
 六 四五 ハ警婦の家を呑いつはりて長所をなす審判るゝと尤も重し  
 七 四五 貧乏警婦のレズタニを授たるを見て曰けると三 われ誠に爾曹に告ん此  
 八 四五 貧乏警婦の衆の者よりも多く授たり蓋かれらハ皆の羨餘ある所よりも捐  
 九 四五 輸を神にさづけ此婦ハ不足どころより其所有を盡く獻たれば也〇五  
 一〇 四五 或人殿は美石と奉納物を以て修飾ることを請しに六 イエス曰けるハ爾曹  
 一一 四五 の見る所のもの石を石の上にも遺棄把さるゝ曰いたらん七 彼等と云て曰

一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 二九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 三九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 四九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 五九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 六九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 七九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 八九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九一 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九二 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九三 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九四 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九五 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九六 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九七 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九八 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 九九 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七  
 一〇〇 本五〇六、六六〇、六六四、六六五、六六六、六六七、六六八、六六九、六七〇、六七

けるは師よ何の時この事あらん正に此の事の來らん時ハ如何なる兆ある  
 八 一 八 イエス曰けるハ爾曹つゝしみて惑さるゝ事なかれ蓋おほくの者わが  
 九 一 九 名を冒きたり我ハキリストなり時ハ近よれり云ん然と爾曹從ふ勿れ  
 一〇 一 九 戰亂を開と恐懼るゝ勿れ此等の事の先に有ハ止を得ざること也然と末  
 一一 一 九 期ハ未だ速ならず又曰けるハ民ハ民をせめ國ハ國を攻ハ各處に大なる  
 一二 一 九 地震饑饉疫癘病おこり且おるるべき事と大なる休徵天より現るべし二  
 一三 一 九 事より先に人々爾曹を執ハ苦め會堂および猶に解し我名の爲に王および  
 一四 一 九 侯の前ハ與往べし然と爾曹が此事に遭ハ證と爲なり故に爾曹まつ  
 一五 一 九 何を對んと思慮せよ此事を心に定よ蓋すべて爾曹に仇する者の辨嚴せ  
 一六 一 九 た敵對てどを爲えざるべき口と智とを我なんぢらに賜へん又なんぢら  
 一七 一 九 父母兄弟親戚戚朋友等より解され且汝らの中ある者ハ殺さるべし七  
 一八 一 九 曹わが名の爲に人々に憐れん然と爾曹の首髪一縷も喪ハじなんぢ  
 一九 一 九 忍耐て其生命を全うせよなんぢら軍勢にエルサレムの圍るゝを見よ



其入どのこの家に隨ひ往て、家の主に御なんぢに云われ、弟子と共に出越  
 を食すべし。客房は何處に在ると曰、然すれば、彼うなへたる大なる樓房を  
 示すべし。其處に備よ。彼等ゆきて、イエスの曰給ひたる如く、遇しかば、出越  
 の備を爲り、時至ければ、イエス食に就ぬ。又使徒も共に就たり。イエス、彼  
 等に曰ける、我苦難を受る先に、爾曹と共に此出越を食すること大に願へ  
 り。六われ、爾曹に告ん、神之國に成さで、復これを食せじ。七イエス杯を  
 どり、謝して曰ける、之を取て互に分よ。八我なんぢらに告ん、神之國の來る  
 まで、葡萄より造しものを飲じ。九また、パンをどり、謝して擘かれらに守て  
 曰ける、此ハ、爾曹の爲に、予わが身體なり。我を記ん爲に、此を行す。また、食  
 して、ち杯をどり曰ける、此杯ハ、爾曹の爲に、流す我血にして、立る所の、漸  
 約なり。三夫、われを賣す者の手ハ、我と共に案にあり。三人の子ハ、果て定られ  
 たる如く、逃ん然、悉も人の子を賣す人は、禍なる哉。三かれら、此事を爲ん者は  
 誰なる乎と、互に問ぬ。二また、彼等の中に、て長たる者は、誰なるかと、互の争ひ

ルカ六〇世第十四七

ルカ六〇世九、十四、十五

ルカ六〇世廿六、廿七、廿八、廿九、三十

約六、五、六

路加二、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

ルカ六、廿四、廿五、廿六、廿七、廿八、廿九、三十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

少、本六〇世、八、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

本三〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

約三〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

本七〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

本九〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

本六〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

本九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

本〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

本〇、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十

り、五、イエス、彼等に曰ける、異邦人の王ハ、其民を支配す。又、うの上は、權を  
 秉者ハ、恩を施す者。と稱らる。六然、悉も、爾曹ハ、如是すべからず。爾曹の、うち大  
 なる者ハ、幼が如く、首たる者ハ、役る者の如なるべし。七食に就る者、と事る者  
 と孰か、大なる食に就る者ならずや。然、悉も、我ハ、爾曹の中に、事る者の如し。八  
 わが、患難に於て、我と、偕に居し者ハ、爾曹なり。九我父の、我に、任せし如く、我も  
 爾曹に、國を、任すべし。三これ、爾曹わが、國に、於て、我案に、食飲し、且、位に、坐して  
 イスラエルの、十二の、支派を、鞠んが、爲也。三主、また、曰ける、ハ、シモン、よ、シモン  
 よ、サタン、爾曹を、索めて、麥の、如く、簸んと、す。三然、悉も、爾の、信仰、絶ざるや。九爾  
 の、爲に、祈れり。爾、歸ん、時、其、兄弟、弟を、堅せよ。三シモン、曰ける、ハ、主よ、我、獄に  
 まで、も、死に、ま、でも、爾と、共、わ、往、んと、心、を、定、たり。三、イエス、曰ける、ハ、ペテロ  
 我、な、ん、ぢ、に、告、ん、今、日、鷄、な、か、ぎ、る、前、に、爾、三、次、わ、れ、を、讒、す、と、言、ん。〇、三、又、彼  
 等に、曰ける、ハ、我、財、布、旅、袋、履、をも、帶、せて、爾、曹、を、遣、し、と、事、の、缺、たる、と  
 有しや、答ける、ハ、無り、き。三、イエス、彼、等、に、曰ける、ハ、今、ハ、財、布、あ、る、者、ハ、之、を、と

1 聖十三〇十二可十五〇  
 廿八  
 4 聖十七〇四  
 八 本廿六〇卅卅大聖四十六  
 可四〇廿六聖五十四  
 二約十八〇二  
 本廿六〇四十七聖五十六  
 十八〇三聖五十七  
 母養中〇九

三七  
 三六  
 三九  
 四一  
 四二  
 四三  
 四四  
 四五  
 四六  
 四七  
 四八  
 四九

れ旅袋ある者も亦然り此等を有ぬ者ハ衣服を賣て刃を買へし我なんち  
 らに告ん彼は罪人の中に算られて有しと鑿されたる此言ハ我に於て應ら  
 るべし蓋われを指たる事ハ必ず成らる可れば也六彼ら曰けるハ主見よ此  
 に二の刃ありイエス彼等に曰けるハ足りイエス出て例の如く橄欖の山  
 に往けるに其弟子も從へり四其處に至て彼等に曰けるハ誘惑に入ざるや  
 う祈れ四イエス彼等を離て石の投らるゝ處を隔り曲膝のり曰けるハ三  
 父よ若し聖旨に背べ此標を我より離ち給へ然るも我意に非たし聖旨のま  
 とに成たせへ三使者天より彼に現れて健壯を添ぬ四イエス痛く哀み切に  
 祈れり其汗ハ血の滴りの如く地に下たり五祈禱より起て弟子に來り彼等  
 が震て寝れるを見曰けるハ何ぞ寝るや起て誘惑に入ざるやう祈れ四七如  
 此いへるとき許多の人々きたる又十二の一人なるユダと云る者其に先ち  
 てイエスに接吻せんと近よれり四イエス曰けるハユダ爾ハ接吻をもて人  
 の子を賣す乎四九の側に居たる者等事の及んとするを見て曰けるハ主よ

ルマ  
 聖一〇三  
 本廿六〇五十七聖十八  
 十九聖七十五  
 可十四〇五  
 十三聖五十七  
 二約十八〇十三聖五十八  
 聖七

五十  
 五二  
 五三  
 五四  
 五五  
 五六  
 五七  
 五八  
 五九  
 六〇  
 六一

我儕乃をもて撃べき乎五十其中の一人祭司の長の僕を撃て其右の耳を創落  
 せり五イエス答て之を釋せと曰うの耳に押て置したり五イエス此に來し  
 祭司の長殿司および長老等に曰けるハ爾曹刃と捧どを持來り強盜に當か  
 如する乎五われ日々に爾曹と僧に殿に在し時ハ我に手を措てど無り然  
 るに今ハ爾曹の時かつ黑暗の勢なり五彼等イエスを執へ曳て祭司の長の  
 家に携往りベテラ遙に從ひぬ五人中庭のうちには火を燒て同に坐しけれ  
 べテラも其中に坐したり五或婢かれが火の傍に坐せるを見てこれを觀視  
 て曰けるハ此人も彼と僧に在し五ベテラ承ずして女よ我これに誰ぞと云  
 り五頃刻して他の人も亦見て曰けるハ爾も彼等の一人なりベテラ曰ける  
 ハ人よ我ハ然乎五約ろ一時燈を過て復燈かの人カ言けるハ誠に此人も彼  
 と僧に在し是ガリヤの人なれば也六ベテラ曰けるハ人よ我あんちの言  
 どてろを誰ぞと云言も果乎忽ち鶏鳴ぬ六主身を回してベテラを見たまへり  
 今日鶏なく前に三次われを誰ぞと云んと主の曰たまひし言をベテラ憶起



三千 撲を起し人を殺して獄に入し者なり。三故にピラトハイエスを釋さん欲  
 三二 以復かれらに曰しかば三かれら呼りて之を十字架に釘し十字架に釘よと  
 三三 曰ピラト二次いひけるハ彼ハ何の惡事を行しや我ハ其れを死罪ある  
 三三 を見ざれば苦むて釋さん三彼等廣く聲をたてて之を十字架に釘んと言慕  
 三四 れり遂に彼等と祭司の長の聲勝たり。三ピラトの求の如く擬て三彼等が  
 三三 求る一撲を起し人を殺して獄に入たる者を釋し其意に任せてイエスを付  
 三六 せり。三彼等イエスを與往せき田間より出來れるクレ子のシモンと云る者  
 三七 を執へ其に十字架を負せてイエスに従はせたり。三衆の民および婦等も從  
 三八 へ婦等ハ彼を哭哀めり。三イエス彼等を願ひひけるハエルサレムの女子よ  
 三九 我爲に哭なかれ惟おのれと己が子の爲に哭。三五産むる者ハ其れ孕むるの胎  
 四〇 いただ哺せざるの乳ハ福なりと曰ん日きたらん。三當時人々山に對て我儕  
 四一 の上に壓へ陵に對て我儕を掩へと曰ん。三もし青木にさへ如此なさば枯木  
 四二 ハ如何せられん。三又他に二人の罪人をイエスと僧に死罪に處はんとて

ク 第廿〇六

十 本七〇四二頁十五〇行

ハ 本七〇四九行一〇行

イ 本七〇四六〇六

ク 本七〇四七行四〇行

フ 本七〇四七行四〇行

ヘ 本七〇四三〇二

エ 本七〇四三〇

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

三三 與往り。三彼等クラニオンと云る所に至りて此にイエス及び罪人を十字架  
 三四 に釘ぬ一人をイエスの右一人を左に置言。三イエス曰けるハ父よ彼等を赦し  
 三五 給へ其爲どころを知ざるが故あり。三彼等圍をしてイエスの衣服を分つ。三罪  
 三六 人々立てイエスを見たり有司も亦嘲ふて曰けるハ彼ハ他人を救へり若キ  
 三七 リスト神の選たる者から自己を救べし。三兵卒も亦かれを嘲弄し來り罪  
 三八 を手て三爾もしエグヤ人の王から自己を救へと曰り。三又ギリシヤロ  
 三九 ムの文字にて此ハエグヤ人の王ありと書る罪標を其上に建たり。三  
 四〇 懸られたる罪人の一人イエスを讓て曰けるハ爾おなじく審判を受か  
 四一 我儕を救へ。三他の一人之たへて彼を責め曰けるハ爾おなじく審判を受か  
 四二 から神を畏ざる乎。三我儕ハ當然かり行との報を受かれ。三此人の何も不是  
 四三 事ハ行ぎりし也。三斯てイエスに曰けるハ主よ爾國に來ん時我を憶たせ  
 四四 三イエス答けるハ誠に我あんちに告ん今日あんちハ我と偕に樂園に在べ  
 四五 し。三時約ハ十二時でろより三時に至まで遍く地のうへ黑暗と爲れり。三

エ 本七〇四三〇

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

ウ 本七〇四三〇五、四三〇六

エ 本七〇四三〇五、四三〇六

三	本廿七章十二可十五
四	本廿七章五至七十一
五	本廿七章五至七十一
六	本廿七章五至七十一
七	本廿七章五至七十一
八	本廿七章五至七十一
九	本廿七章五至七十一
十	本廿七章五至七十一
十一	本廿七章五至七十一
十二	本廿七章五至七十一
十三	本廿七章五至七十一
十四	本廿七章五至七十一
十五	本廿七章五至七十一
十六	本廿七章五至七十一
十七	本廿七章五至七十一
十八	本廿七章五至七十一
十九	本廿七章五至七十一
二十	本廿七章五至七十一
二十一	本廿七章五至七十一
二十二	本廿七章五至七十一
二十三	本廿七章五至七十一
二十四	本廿七章五至七十一
二十五	本廿七章五至七十一
二十六	本廿七章五至七十一
二十七	本廿七章五至七十一
二十八	本廿七章五至七十一
二十九	本廿七章五至七十一
三十	本廿七章五至七十一
三十一	本廿七章五至七十一
三十二	本廿七章五至七十一

日光くらみ殿の内幔中より裂たり四六一エス大聲に呼り回ける父より  
 我靈を爾の手に託し如此いひて氣絶ゆ四七  
 崇め日ける誠に此人義人ありき四八之を觀んとて衆れる衆人みな此を  
 りし事等を見て膺を拊て返れり四九イエスの相識の人々およびガラヤよ  
 り隨ひし婦人等遠く立て此等の事を見たり○五十議員あるヨセフと云る善  
 かつ義ある人あり五彼等の評議と行爲を肯んざりき是ハエダヤのアッ  
 タヤの邑の人にて神の國を慕る者あり五此ハピラトに往イエスの屍を乞  
 て之を取下し布にて裹ひまた人を擧し事さき石の鑿たる墓に置り五此  
 日ハ備節日あり且安息日近きハガラヤよりイエスと僧に來りし婦た  
 ち後に隨ひて其墓と屍の置れたる狀を見たり五六彼等かへりて香物と香膏  
 を備へ置て誠に従ひ安息日を休めり  
 七日の首日の味爽に此婦たち備置たる香物を携て墓に來しに  
 他の婦等も僧に來れりニ彼等石の墓より轉たりしを見て三入ければ主人

四	本廿七章十二可十五
五	本廿七章五至七十一
六	本廿七章五至七十一
七	本廿七章五至七十一
八	本廿七章五至七十一
九	本廿七章五至七十一
十	本廿七章五至七十一
十一	本廿七章五至七十一
十二	本廿七章五至七十一
十三	本廿七章五至七十一
十四	本廿七章五至七十一
十五	本廿七章五至七十一
十六	本廿七章五至七十一
十七	本廿七章五至七十一
十八	本廿七章五至七十一
十九	本廿七章五至七十一
二十	本廿七章五至七十一
二十一	本廿七章五至七十一
二十二	本廿七章五至七十一
二十三	本廿七章五至七十一
二十四	本廿七章五至七十一
二十五	本廿七章五至七十一
二十六	本廿七章五至七十一
二十七	本廿七章五至七十一
二十八	本廿七章五至七十一
二十九	本廿七章五至七十一
三十	本廿七章五至七十一
三十一	本廿七章五至七十一
三十二	本廿七章五至七十一

エスの屍を見ず四之が爲に躊躇をりしに輝る衣服を着たる二人の傍に  
 立ち五かれら懼て面を地に伏ければ其人いひけるハ爾曹何不死たる者の  
 中に生たる者を尋るや六彼ハ此に在す懸りたり彼ガラヤに居しとヨ爾  
 曹に評て八の子ハ必ず罪ある人の手に付され十字架に釘られ第三日に懸  
 る可と云たりしを憶起り七彼等りの言を憶いで九墓より歸て此等の事を  
 みみ十一の弟子と他の弟子等に告十此等の事を使徒に告たる者ハマダ  
 ラのマリヤヨハンナヤコブの母なるマリヤ又他に僧に在し婦等あり十  
 使徒の語れるを虚誕と意ひて信ぜず三ペテロ起て趨り墓に往かざり  
 て帆布のかたよせ在を見て其週とてこの事を奇みつと歸れり○十三當日二  
 人の弟子エルサレムより三里ハかり隔りたるエマヲと云る村に往けるに  
 十五に此等の所遇をもを請わへり十五諸り論する時にイエス自ら近づきて  
 十六僧に往り十五然と彼等の目迷されて知て之を得ざり十五イエス日けるハ爾  
 曹行つて互に衰み談論とて何ぞ乎十六の一人のクレオパと云る者答け

三 路十三〇七至八

女 路一六

一 路十六二七

マ 路一〇九

二 路一〇九

三 路一〇九

四 路一〇九

五 路一〇九

六 路一〇九

七 路一〇九

八 路一〇九

九 路一〇九

十 路一〇九

十一 路一〇九

十二 路一〇九

十三 路一〇九

十九 爾ハエルサレムノ旅人にして獨之の之有し事を告ぐる乎答ける  
 何事か之に曰けるハナザレのイエスの事あり此人ハ神と萬民の前に  
 於て行言に大なる能ある預言者なりしが祭司の長と有司等かれを死  
 罪に解して十字架に釘たり三我儕イスラエルを贖はん者ハ此人なりと望  
 たりし又うれ而巴ならず此等の事の成しより今日ハ第三日あるに我儕  
 の中なる成婦たち我儕を驚駭せり彼等朝はやく墓に往三つの房を見ずし  
 て來り天使あらハれて彼ハ甦れりと言ふを見たりと告言また我儕と偕に  
 在し者も墓に往たるに婦の言る如にて且かれを見ざり三イエス曰ける  
 ハ預言者の凡て言たる事を信する心の運き愚なる者よ三キリストハ此等  
 の難を受て其榮光に入べきに非や三モ故にモ一セよ凡の預言者を始すべ  
 ての聖書に於て己に就ての事ハ解明されたり三彼等ゆく所の村に近きけ  
 るに彼ゆき過んと爲る狀をみせバ三我儕等勸め曰けるハ日景きて暮に及ぬ  
 我儕と偕に止れ彼いりて止る三共に食に就る時パンをとり謝して擧かれ

三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

三三 路八五九

らに子ければ二人の者の目瞭かに爲て彼を識り又忽ち其目に見ず爲り  
 三彼等たがひに曰けるハ途間にて我儕と語かつ聖書を解開ける時われら  
 が心熱しに非や三此時から起てエルサレムに歸り十一の弟子および  
 同なる人の集り居に遇三ろの人等の曰けるハ主實に甦りシモンに現れ  
 たり五人の者も途間にて所遇とパンを擧たまへるに因て識たる事を語  
 せり三此事を語れる時イエス自ら其中に立て曰けるハ爾曹安かれ三かれ  
 ら駭き懼れて見どころの者を靈ならんと意り三イエス曰けるハ爾曹何ぞ  
 駭くや何ぞ心に疑ひ起るや三我手わが足を見て我なるを知られを擧て視  
 入靈ハ我が在る爾曹が見てどく肉と骨ハ有ざる也三如此いひて其手足を  
 示せしに三彼等喜べども猶信せず異める時にイエス此に食物ある平と曰  
 けれバ三突たる魚と蜜房を子三之を取て其前に食せり三また彼等に曰  
 けるハモ一セの例預言者の書また詩の篇に錄されたる我事につく凡の言  
 の必らず應べきハ我もと爾曹と偕に在しとき語れる所なり三是に於て聖

六 卷十六頁十  
 七 卷十四頁七  
 八 卷十三頁九  
 九 卷十三頁八  
 十 卷十三頁九  
 十一 卷十三頁八  
 十二 卷十三頁九  
 十三 卷十三頁九  
 十四 卷十三頁九  
 十五 卷十三頁九  
 十六 卷十三頁九  
 十七 卷十三頁九  
 十八 卷十三頁九  
 十九 卷十三頁九  
 二十 卷十三頁九  
 二十一 卷十三頁九  
 二十二 卷十三頁九  
 二十三 卷十三頁九  
 二十四 卷十三頁九  
 二十五 卷十三頁九  
 二十六 卷十三頁九  
 二十七 卷十三頁九  
 二十八 卷十三頁九  
 二十九 卷十三頁九  
 三十 卷十三頁九  
 三十一 卷十三頁九  
 三十二 卷十三頁九  
 三十三 卷十三頁九  
 三十四 卷十三頁九  
 三十五 卷十三頁九  
 三十六 卷十三頁九  
 三十七 卷十三頁九  
 三十八 卷十三頁九  
 三十九 卷十三頁九  
 四十 卷十三頁九  
 四十一 卷十三頁九  
 四十二 卷十三頁九  
 四十三 卷十三頁九  
 四十四 卷十三頁九  
 四十五 卷十三頁九  
 四十六 卷十三頁九  
 四十七 卷十三頁九  
 四十八 卷十三頁九  
 四十九 卷十三頁九  
 五十 卷十三頁九

四十六 書を悟せんとて其聰を啓き曰けるハ已に刻録されたり如此キリストハ  
 四十七 昔難をうけ第三日に死より甦るべし又その名に託て悔改と救罪ハエ  
 四十八 ルサレムより始まり萬國の民に宣傳られん爾曹ハ此等の事の證人なり  
 四十九 我わが父の誓のものを爾曹に遺らん爾曹上より權を授らんと送ハエル  
 五十 サレムに留れんキエス彼等を遣きベタニヤに至り手を擧て彼等を祝す五  
 五十一 祝する時かれらを離れ天に擧られたり五彼等これを拜して甚く喜ビエル  
 五十二 サレムに歸り恒に殿に入て神を頌美せられた祝謝せりアマソ  
 五十三 新約全書路加傳福音書 終

一 卷八頁二  
 二 卷八頁二  
 三 卷八頁二  
 四 卷八頁二  
 五 卷八頁二  
 六 卷八頁二  
 七 卷八頁二  
 八 卷八頁二  
 九 卷八頁二  
 十 卷八頁二  
 十一 卷八頁二  
 十二 卷八頁二  
 十三 卷八頁二  
 十四 卷八頁二  
 十五 卷八頁二  
 十六 卷八頁二  
 十七 卷八頁二  
 十八 卷八頁二  
 十九 卷八頁二  
 二十 卷八頁二  
 二十一 卷八頁二  
 二十二 卷八頁二  
 二十三 卷八頁二  
 二十四 卷八頁二  
 二十五 卷八頁二  
 二十六 卷八頁二  
 二十七 卷八頁二  
 二十八 卷八頁二  
 二十九 卷八頁二  
 三十 卷八頁二  
 三十一 卷八頁二  
 三十二 卷八頁二  
 三十三 卷八頁二  
 三十四 卷八頁二  
 三十五 卷八頁二  
 三十六 卷八頁二  
 三十七 卷八頁二  
 三十八 卷八頁二  
 三十九 卷八頁二  
 四十 卷八頁二  
 四十一 卷八頁二  
 四十二 卷八頁二  
 四十三 卷八頁二  
 四十四 卷八頁二  
 四十五 卷八頁二  
 四十六 卷八頁二  
 四十七 卷八頁二  
 四十八 卷八頁二  
 四十九 卷八頁二  
 五十 卷八頁二

二 大初に道あり道ハ神と偕にあり道ハ即ち神なりニこの道ハ大初に  
 三 神と偕に在キ三萬物之れに由て造らる者に一として之に由らで  
 四 造らしハ無之に生あり此生ハ人の光なり  
 五 光ハ暗に照り暗之を曉ら  
 六 諸之に神は遣し給へるヨハ子と云る者ありそのの來りしハ  
 七 證の爲あり即ち光に就て證を作すべて人をして己に因て信せしめんが  
 八 爲なりハ彼ハ光に非ず光に就て證を作ん爲に來れり夫すべて人を照  
 九 ず眞光ハ世に來れりハかれ世にあり世ハ彼に造れたるハ世之れを識す  
 十 主かれ己ハ國に來しに其民之れを接ざりき十二彼を接ざりし者に  
 十一 ハ權を賜ひて此を神の子と爲り十三斯る人は血脈に由り非ず情慾に由り非  
 十二 ず人の意ハ由り非ず唯神に由りて生れし也十四爾體と成て我儕の間に  
 十三 寄れり我儕の榮を見に實に父の生たせ入る獨子の榮にして恩寵と眞理  
 十四 にて充り○十五ヨハ子之が證を作て呼ひひけるハ我らに我ら後來らん